

2024 年 6 月

食料安全保障月報

(第 36 号)



令和 6 年 6 月 28 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2024 年 6 月食料安全保障月報（第 36 号）

目 次

概要編

I	2024 年 6 月の主な動き	1
II	2024 年 6 月の穀物等の国際価格の動向	5
III	2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント	5
IV	2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	5
V	今月の注目情報「最近の異常気象と穀物生産への影響」	6

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	1 0
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 1
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 2
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 4
5	食品小売価格の動向	1 8
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	1 9
7	FAO 食料価格指数	2 1

今月のコラム

「フランスの食事情」	2 2
------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25 年度の生産量は上方修正され 51.0 百万トンの見込み
	＜カナダ＞	2024/25 年度の生産量は前年度比 8.3%増の 34.6 百万トンの見込み
	＜豪州＞	2024/25 年度の生産量は 29.1 百万トンの見込み
	＜EU27＞	2024/25 年度の生産量は 127.1 百万トンの見込み
	＜中国＞	2024/25 年度の冬小麦の収穫は順調
	＜ロシア＞	2024/25 年度の生産量は降霜と乾燥により 83.0 百万トンに下方修正
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度の生産量は乾燥により 19.5 百万トンに下方修正
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より 3.1%減の見込み
	＜ブラジル＞	2024/25 年度の生産量は増加の見通し
	＜アルゼンチン＞	2024/25 年度の生産量は、前年度から減少する見通し
	＜中国＞	2024/25 年度の生産量は、前年度から増加する見通し
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より 10.6%減の見込み

3 コメ	1 5
＜米国＞	2024/25 年度の生産量は増加の見込み
＜インド＞	カリフ米の作付けを開始
＜中国＞	低温や多雨が東北部の一期作稲や東部・南部の早稲の生育等に影響
＜タイ＞	5 月中旬から雨期入り。雨期米の生育等に良好な降雨
＜ベトナム＞	北部は冬春作（乾期米）を収穫、南部は夏秋作（雨期米）を作付け

II 油糧種子

大豆	2 1
＜米国＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より 6.9%増の見込み
＜ブラジル＞	2024/25 年度の生産量は前年度より増加する見通し
＜アルゼンチン＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より増加する見通し
＜中国＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より減少する見通し
＜カナダ＞	2024/25 年度の生産量は 6.9 百万トンの見込み

(参考 1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2024/25 年度) …	2 7
(参考 2) 単位換算表 …	2 7
(参考 3) 各国のクロップカレンダー一覧（主要品目毎） …	2 8

【利用上の注意】

表紙写真：ロシアのスタヴロポリ地方イズビリネンスキー地区の登熟期を迎えた小麦。
穂の形成状態は良好で、2 週間後に収穫作業が開始される見込み。（スタヴ
ロポリ地方 2024 年 6 月 11 日）。

(概要編)

I 2024 年 6 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2024/25 年度の作況について、北半球では冬小麦が収穫期を迎えており、とうもろこし等の作物は生育期を迎えている。なお、南半球では 2023/24 年産の作物が収穫期を迎えている。

品目別にみると、6 月の米国農務省 (USDA) の需給報告によれば、2024/25 年産の小麦については、ロシア及びウクライナで単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、インドで単収の増加、中国で単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年 3 月に過去最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する 4 者合意（黒海穀物イニシアティブ）については 2023 年 7 月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU の東欧経由での輸出の進捗も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル、EU 等で単収・収穫面積ともに前年度より増加するものの、米国で収穫面積の減少、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。大豆については、ブラジルや米国で単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視する必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に穀物と乳製品の価格の上昇等により、4 月の 119.3 から、5 月(最新値)は 120.4 に上昇（参考：2023 年 5 月 124.7、2022 年 5 月 158.1、2021 年 5 月 128.1、2020 年 5 月 91.1）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近 5 カ年の平均値と同程度の水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021 年 7 月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024 年 6 月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

米国農務省（USDA）の6月需給報告によれば、2024/25年度の小麦の生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より15%減少し1,950万トンとなる見込み。とうもろこしの生産量も、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より11%減少し2,770万トンとなる見込み。2024/25年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より28%減少し1,300万トンとなる見込み。とうもろこしも前年度より6%減少し2,450万トンとなる見込み。

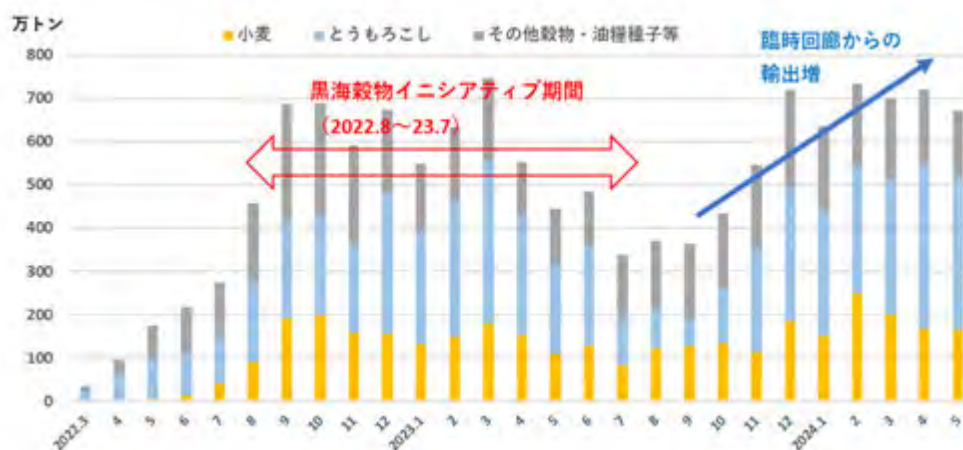
ウクライナ気象センターによれば、5月末現在、2024年産の冬小麦は出穂・開花期から乳熟期を迎えており作柄は良好及び並み。春小麦は分けつ期から乳熟期を迎えており作柄は概ね良好又は並み。とうもろこしは出芽期から三葉期から七葉期を迎えており作柄は概ね良好又は並み。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ビブジェヌイ港）から輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊からの輸出や、運河等を利用しルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が増加している。ウクライナ農業政策食料省によれば、2023年8月～24年5月までの穀物・油糧種子等の輸出量は5,893万トン（うち小麦1,616万トン、とうもろこし2,458万トン）（参考）。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2024年5月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

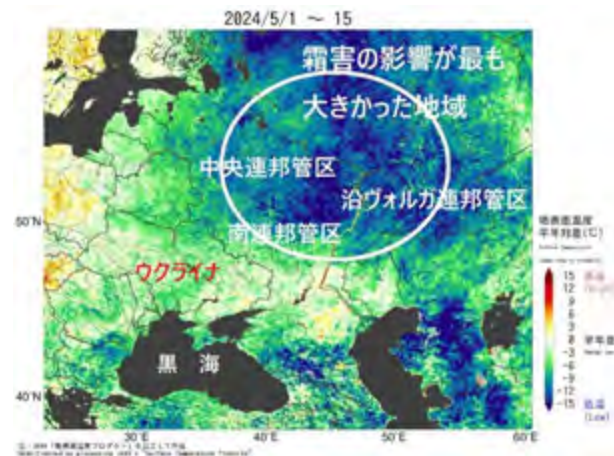
注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 ロシア：降霜と乾燥によりロシア南西部で作物に被害

米国農務省（USDA）の6月需給報告によれば、2024/25年度のロシア産小麦の生産量（クリミア地域含まず）は、前月より6%下方修正され、前年度より9%減少の8,300万トン（うち冬小麦5,900万トン、春小麦2,400万トン）となる見込み。単収は前月より4%下方修正され、前年度より7%減少の2.95トン／ヘクタール、収穫面積は前月より1%下方修正され、前年度より3%減少の2,810万ヘクタールの見込み。

ロシアでは冬小麦が全生産量の約70%を占め、主にロシア南西部で栽培されている。冬小麦の主産地では5月初旬に寒波に襲われ数回の霜害が発生し、中央連邦管区、沿ヴォルガ連邦管区及び南連邦管区の作物生産に被害を与えた。ロシア農業省の予備的な評価によれば、少なくとも150万ヘクタールの農地が影響を受けたという。

図1：ロシアの地表面温度平年対差
(2024. 5. 1～5. 15)



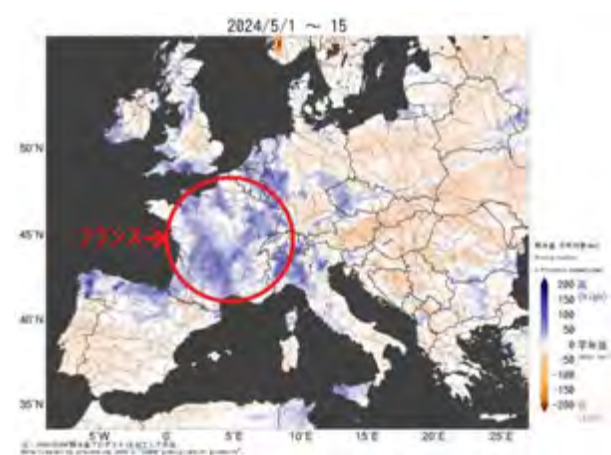
出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム

2 フランス：長雨により小麦の作柄が悪化

USDAによれば、2024/25年度のフランス産小麦の生産量は、前月より5%下方修正され、前年度より13%減少の3,170万トンとなる見込み。単収は前月より5%下方修正され、前年度より6%減少の6.88トン／ヘクタール。

フランスでは2023年秋以降、降雨過多により小麦の作柄が悪化している。5月の降雨量も平年を上回り、長引く降雨により収穫に支障が生じている。フランス農務省によれば、6月3日の軟質小麦の作柄は良又は優良が62%と、前年同期の88%から大幅に低下し、降雨過多が作物に悪影響を及ぼした2020年以来最低の水準となっている。フランスだけでなく、イギリスやドイツなどの近隣諸国でも、過度の降雨による作柄悪化が懸念されている。

図2：フランスの降水量平年対差
(2024. 4. 28～5. 4)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム

3 インド：モディ政権継続を受け輸出規制も継続見込み

USDAによれば、2024/25年度の小麦生産量は好天に恵まれ1億1,400万トンと過去最高を記録するものの、インフレの抑制と国内価格の安定化、政府在庫の確保のため、輸出禁止を継続する見通し。また、コメ生産量も1億3,800万トンと過去最高を記録するものの、インフレ懸念から、少なくとも2024年末まで現行の輸出制限を継続するとみられる。

6月4日に開票が行われたインドの総選挙は、モディ首相率いる与党インド人民党（BJP）を中心とする与党連合が下院議会の過半数の議席を維持し、同9日に3期目の政権を発足させた。なお、インフレ率が政府目標（2～6%）に収まっていないこと等も受け、輸出政策も当面変更はない見込み。

4 中東：紅海における船舶航行の安全確保が困難なため回避

イスラエルとハマスの戦闘が継続する中、報道等によれば、2023年12月以降、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が、地中海とインド洋をスエズ運河経由で結ぶ紅海を航行する商船を攻撃しており、運送各社は貨物輸送をアフリカ喜望峰経由等に迂回させている。また、パナマ運河については、降雨不足による水位低下に伴う通航制限が継続している。現在、パナマ運河庁は、1日当たりの通航船舶を32隻に制限しているが、6月11日、雨季の到来により7月11日より33隻へ、同22日より34隻に増加すると発表した。

我が国の穀物輸入に関し、小麦は主に米国・カナダ西海岸及び豪州から輸入しており、上記2つのルートを通過しない。また、ブラジル産穀物等の多くは喜望峰経由で輸入している。

一方、米国産のとうもろこし及び大豆は、通常、メキシコ湾（ガルフ）からパナマ運河経由で輸入している場合が多い中、最近のパナマ運河の水位低下により地中海→スエズ運河→紅海→インド洋経由のルートを選択したケースもあったが、最近の中東情勢を受け、再度、喜望峰や米国西海岸（PNW）経由に切り替えざるを得なかったとみられる。喜望峰経由の場合、ガルフからパナマ運河経由で輸入する場合と比較して2週間から3週間程度日数が嵩む。PNWの港からとうもろこしを積み込む動きも一部に見られる。引き続き、今後の動向について注視が必要である。



II 2024 年 6 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、5 月末、250 ドル/トン台前半で推移。6 月に入り、米国産冬小麦の良好な作柄と順調な収穫等を受けて、220 ドル/トン台前半まで下落。その後、ロシアにおける乾燥及び霜害による減産懸念等から値を上げ、6 月中旬現在、220 ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、5 月末、170 ドル/トン台半ばで推移。6 月に入り、米中西部での順調な作付進捗及び良好な作柄報告等を受けて、170 ドル/トン台前半まで下落。その後、米国中西部における高温による作柄懸念等から 180 ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国中西部における降雨予報等を受けて下落し、6 月中旬現在、170 ドル/トン台後半で推移。

コメは、5 月末、660 ドル/トン台前半で推移。6 月に入り、乾季米の収穫が終了したものの、需要が軟化したこと等から値を下げ、6 月中旬現在、660 ドル/トン台前後で推移。

大豆は、5 月末、440 ドル/トン台前半で推移。6 月に入り、米国産の順調な作付進捗及び原油安等を受けて 430 ドル/トン台前半まで下落。その後、ブラジルの生産見通しの下方修正等から 430 ドル/トン台後半まで上昇したものの、米国産の順調な作付進捗等を受けて下落し、6 月中旬現在、430 ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より 0.7% 増の 28.30 億トン。消費量は、前年度より 0.7% 増の 28.37 億トンとなり、4 年連続で生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り 27.1% となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.30 億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦で減少も、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.37 億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで増加も、小麦、とうもろこしで減少し、穀物全体で減少し、5.00 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.68 億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は 6 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.86 億トン。消費量は前年度を上回り 6.65 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る 21.6% となる見込み。

(注：数値は 6 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」等による)

V 今月の注目情報: 最近の異常気象と穀物生産への影響

気象庁は、6月10日、昨年春から続いていたエルニーニョ現象が収束し、今後夏にかけてラニーニャ現象が発生する確率が高いとの見方を示した。

穀物等の主要輸出国であり、ラニーニャ現象の影響を特に受けやすいブラジル、アルゼンチン及びオーストラリアにおける直近3年の生産動向を中心に、最近の異常気象による穀物生産への影響と今後の見通しをまとめた。

注：文中の「2023/24年度」等は市場年度で、豪州の小麦は2023年10月から2024年9月、ブラジルおよびアルゼンチンのとうもろこしは2024年3月から2025年2月、大豆は2023年10月から2024年9月。国や作物によって異なる(品目別需給編P.27参照)。

1 エルニーニョ現象・ラニーニャ現象

(1) エルニーニョ現象の収束とラニーニャ現象の発生予測

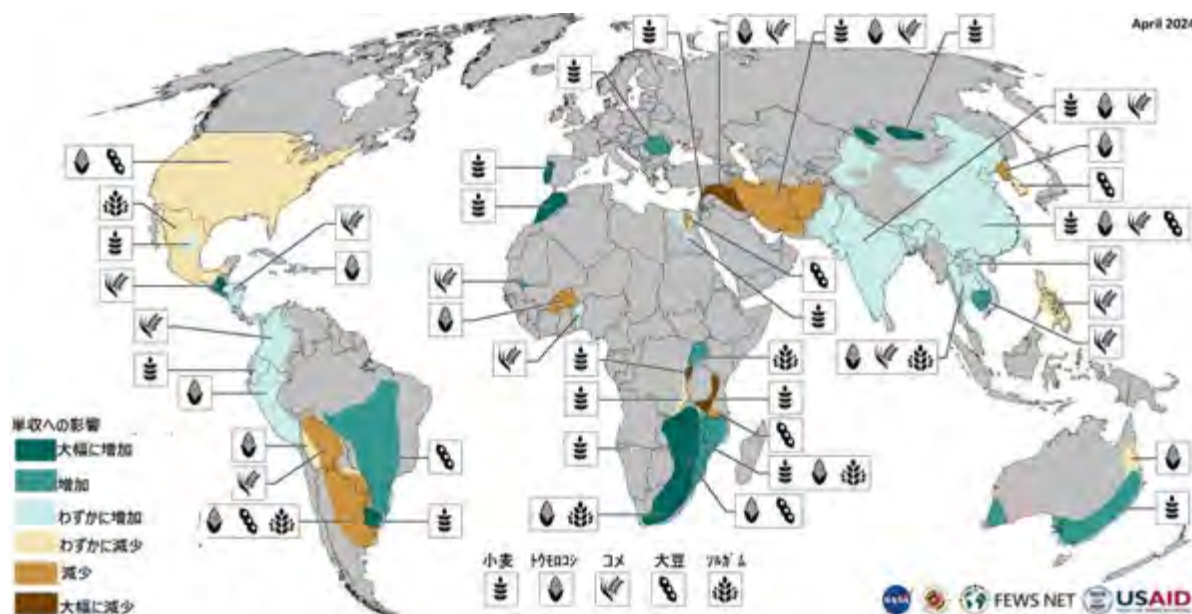
「エルニーニョ現象」は、太平洋赤道域の南米沿岸から日付変更線付近にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象である。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態は「ラニーニャ現象」と呼ばれる。両現象は、それぞれ数年おきに発生しており、気象庁によれば、昨年春から続いていたエルニーニョ現象が収束しつつある一方、ラニーニャ現象が今後発生する確率が6月から10月にかけては50%、7月から11月にかけては60%に上昇すると予測している。

(2) ラニーニャ現象による降水量の変化と作物への影響

農産物市場情報システム（AMIS）によれば、ラニーニャ現象が発生した場合、南米南部のアルゼンチン、ブラジル南部等で平年を下回る降雨量となる傾向が見られる一方、ブラジル中西部等の南米北部、豪州、アフリカ南部で平年を上回る降雨量になる傾向がある。

過去のラニーニャ現象に照らせば、小麦はアルゼンチン、ブラジル南部、豪州等で増産となる一方、米国等では減産、とうもろこしは中国、アフリカ南部等で増産となる一方、米国、アルゼンチン等で減産、大豆はブラジル、アフリカ南部等で増産となる一方、米国、アルゼンチン等で減産する傾向がみられる（図1）。

図1 小麦、とうもろこし、コメ及び大豆のラニーニャ現象時の過去の生産状況



出典：Crop Monitor for AMIS

2 各国の穀物生産への影響

穀物等の主要輸出国であり、ラニーニャ現象の影響を強く受ける傾向があるブラジル、アルゼンチン及び豪州を中心に、近年の生産状況と 2024/25 年度の見通しについて概観する。

(1) ブラジル

ブラジル食料供給公社（CONAB）の 6 月需給報告によれば、ラニーニャ現象が到来した 2022/23 年度は、概ね生育に適した天候に恵まれ、とうもろこしの生産量は 1 億 3,189 万トンと史上最高を記録、大豆も 1 億,5460 万トンと史上最高を記録した。

他方で、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、エルニーニョ現象等の影響を受け、前年度に比べ 13% 減少し 1 億 1,414 万トンとなる見込み。このうち南部のリオ・グランデ・ド・スール州等が主産地である夏とうもろこしは、作付期の降雨過多により前年度に比べ 14% 減少し 2,362 万トンとなる見込み。さらに、中西部のマトグロッソ州等が主産地である冬とうもろこしは、高温乾燥の影響を受け、前年度に比べ 13% 減少し 9,052 万トンとなる見込み。また、大豆は高温乾燥により前年度に比べ 5% 減少し 1 億 4,735 万トンとなる見込み。

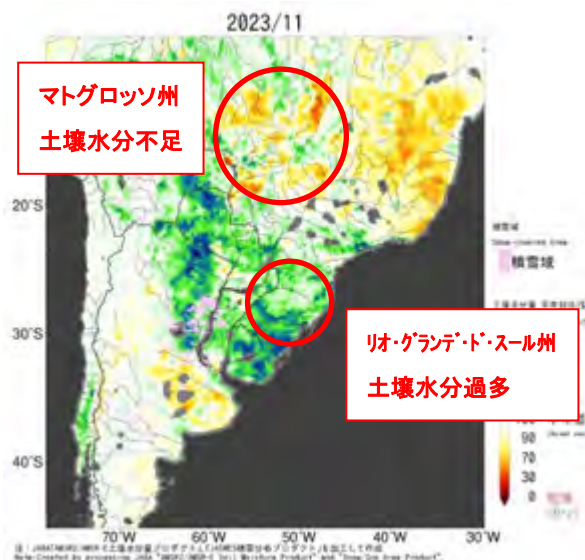
2024/25 年度のとうもろこし・大豆の作付作業は本年 9 月以降に開始される。米国農務省（USDA）によれば、エルニーニョ現象の収束に伴う好天への期待等から、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は 1 億 2,700 万トンと前年度より 4% 増加する見込み。また、大豆も 1 億 6,900 万トンと前年度より 10% 増加する見込み。

(2) アルゼンチン

アルゼンチンは、2021 年終盤からのラニーニャ現象の到来を受け 60 年に一度といわれる干ばつに見舞われ、2022/23 年度の穀物は軒並み大幅な減産となった。USDA によれば、2022/23 年度の小麦の生産量は前年度に比べ 43% 減少し 1,255 万トンに、とうもろこしも 31% 減少し 3,600 万トンに、大豆も 43% 減少し 2,500 万トンとなった。

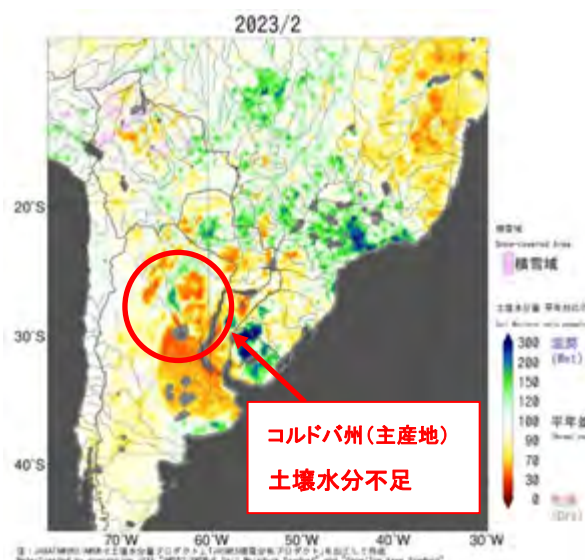
他方、2023/24 年度は、エルニーニョ現象の到来を受けて生長に適した降雨に恵まれ、とうもろこしについては、遅植えとうもろこしが病害虫のヨコバイによる被害を受け単収が低下したものの、とうもろこし全体としてはラニーニャ現象により大幅な減産となった前年度に比べ 47% 増、過去 5 年平均比 5% 増の 5,300 万トンとなる見込み。大豆は前年度に比べ 100% 増、過去 5 年平均比 14% 増の 5,000 万トンに、小

図2 南米の土壌水分量（平均対比）：2023 年 11 月
（2023/24 年度：エルニーニョ現象発生時）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

図3 南米の土壌水分量（平均対比）：2023 年 2 月
（2022/23 年度：ラニーニャ現象発生時）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

麦は前年度も比べ 26%増も過去 5 年平均比では 13%減の 1,585 万トンとなる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は 5,100 万トンと、前年度に比べ 4%減少する見込み。これは、ヨコバイによる被害が生産者の作付意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることによる。

一方、2024/25 年度の大豆の生産量は 5,100 万トンと、前年度より 2%増加する見込み。これは、とうもろこしより大豆の収益性が高く、農家が大豆の作付けを増加させると見込まれること等による。小麦の生産量も 1,750 万トンと前年度より 10%増加する見込み。現在、小麦と大豆の二毛作は最も収益性の高い選択肢となっているほか、ヨコバイによる被害がとうもろこしの作柄に影響を及ぼしている状況の中、農家が小麦の作付けを増加させると見込まれることによる。

2024/25 年度のアルゼンチンの小麦の作付作業は 5 月から、とうもろこしは 9 月から、大豆は 11 月からそれぞれ開始される。過去のラニーニャ現象発生時には、とうもろこし及び大豆は減産、小麦は増産となる傾向がみられるが、今年中盤以降に発生が予測されるラニーニャ現象がアルゼンチンの作物の生産量にどう影響を及ぼすか、今後の天候等にも注視したい。

(3) 豪州

豪州は、2020 年以来ラニーニャ現象の影響を受けて 3 年間継続して降雨に恵まれ、小麦の生産量は毎年過去最高を更新した。

他方、2023 年は、2023 年初旬から始まったエルニーニョ現象の影響を受け、小麦主産地の降雨量が平年を大きく下回り生産量が急減した。USDA によれば、2023/24 年度の小麦の生産量は 2,600 万トンと、前年度と比べ 36%減少、過去 5 年平均比でも 7.7%減少する見込み。

こうした中で、ラニーニャ現象の到来も予想されている 2024/25 年度における小麦の生産量は 2,900 万トンと前年度に比べ 12%増加となる見込み。過去 5 年平均比では 2.8%の減少となるものの、史上 6 番目の水準となる。豪州農業資源経済科学局「Australian Crop Report」(2024.6.4)によれば、豪州の小麦は現在、作付期から出芽期を迎えている。主要生産州のウエスタンオーストラリア州(WA 州)では、作付時の土壌水分量は平年を下回ったが、5 月の降雨により州の大部分で土壌水分量が改善した。また、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)では、作付時の土壌水分量は平年を上回り、5 月も理想的な土壌水分量を維持している。豪州気象局によれば、今年のラニーニャ現象の到来により 6 月から 8 月までの降水量は概ね良好と予測しており、生産量の増加が期待される。

図 4 豪州の年別降水量の推移 (2020 年～2023 年)

(青は平年以上、白は平年並み、赤は平年以下)

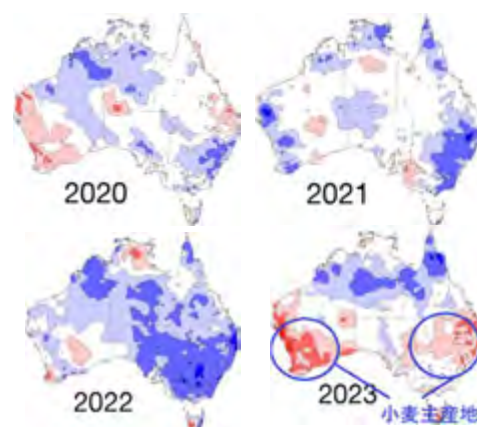
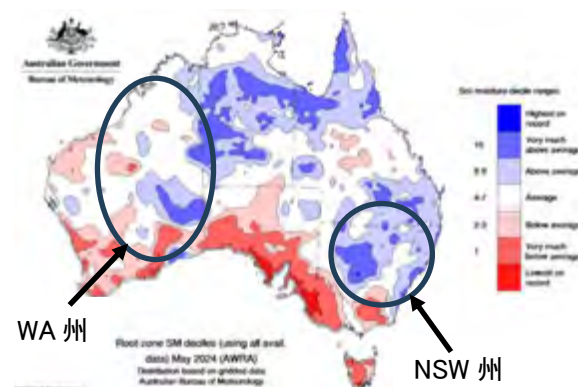


図 5 豪州の土壌水分量平年対差 (2024 年 5 月)

(青は平年以上、白は平年並み、赤は平年以上)



出典：豪州気象局

3 穀物需給への影響と今後の動向し

(1) エルニーニョ・ラニーニャの影響を受ける生産国の相互補完性

2020 年より連続的に発生したラニーニャ現象の下、ブラジルでは天候に恵まれ、とうもろこし、大豆ともに生産量が史上最高を記録した。また、豪州でも小麦の生産量が史上最高を記録した。これに対し、アルゼンチンでは 60 年に一度といわれる干ばつに見舞われ、小麦、とうもろこし及び大豆の生産量は軒並み大幅に減少した。

他方で、2023 年からのエルニーニョ現象発生時にはその逆の傾向が見られ、ブラジル及び豪州では減産となった一方、アルゼンチンでは増産となった。

このように、ここ数年のエルニーニョ・ラニーニャ現象では、アルゼンチンとブラジルではとうもろこしと大豆、アルゼンチンと豪州では小麦が相互に補完し合うことで、全体として生産量が一定程度確保される傾向がみられた。

図6 アルゼンチンとブラジルの
とうもろこし生産量の推移

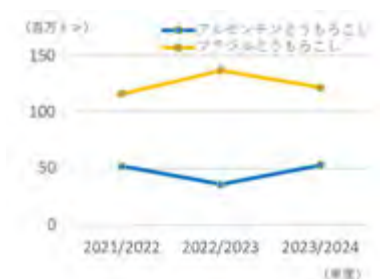


図7 アルゼンチンとブラジルの
大豆生産量の推移

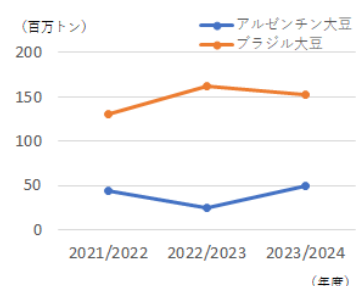
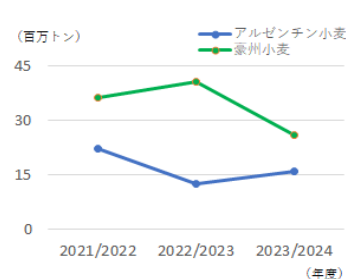


図8 アルゼンチンと豪州の
小麦生産量の推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

(2) 今後の動向

2024/25 年度のとうもろこし及び大豆について、ブラジルでは本年 9 月以降に作付作業が開始される中、前回のラニーニャ現象が到来した 2022/23 年度はとうもろこし、大豆ともに史上最高の生産量を記録しており、今年度も豊作となる可能性がある。一方、アルゼンチンでは、とうもろこしは 9 月から、大豆は 11 月以降にそれぞれ作付作業が開始されるが、2022/23 年度のラニーニャ現象到来の際には、60 年に一度といわれる干ばつに見舞われ、とうもろこし、大豆ともに大幅な減産となっており、今後の天候が生産に与える影響に注視が必要。米国については、6 月上旬現在、とうもろこし、大豆ともに出芽期を迎えており、好天に恵まれ作物は順調に生長しているが、米国では、ラニーニャ現象が発生した際には乾燥天候となる傾向がみられることから、米国産とうもろこし及び大豆の生産量に大きな影響を及ぼす 8 月までの天候に注視が必要となる。

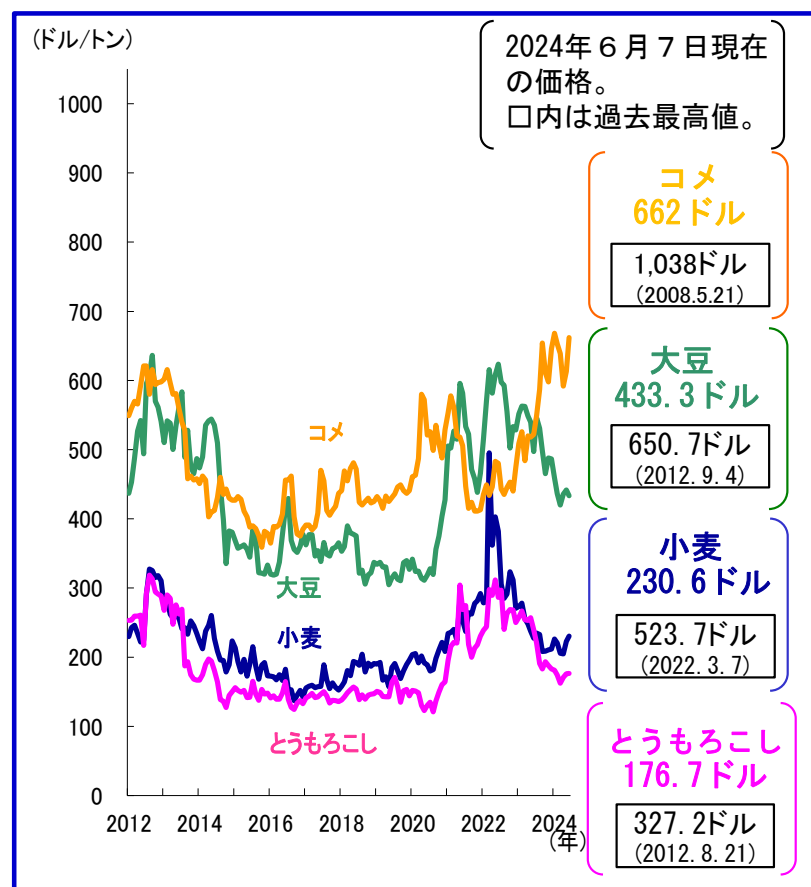
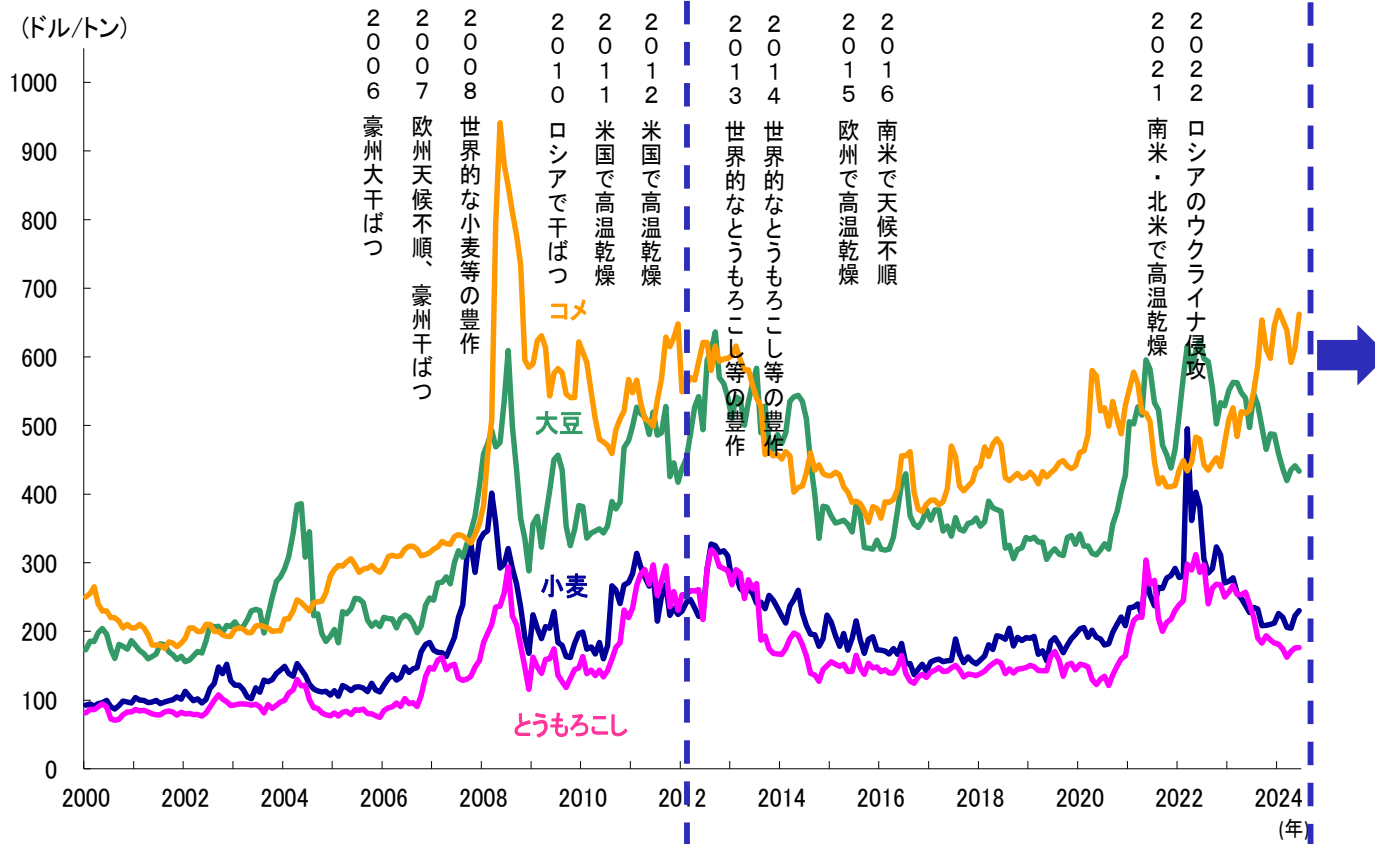
また、2024/25 年度の小麦について、アルゼンチンでは 5 月から作付作業が開始された。前回のラニーニャ現象が到来した 2022/23 年度は、干ばつに見舞われ大幅な減産となったものの、過去のラニーニャ現象に照らせば、小麦は増産となる傾向にあるとも言われており、今年中盤以降のラニーニャ現象の到来が作物生産にどう影響を及ぼすか注視が必要。さらに、豪州では前回のラニーニャ現象の際には降雨に恵まれ史上最高の生産量を記録しており、今年も豊作となるか注目したい。

作物の生産量は、エルニーニョ・ラニーニャといった気候要因だけでなく、価格動向や地政学的なリスクなど様々な要因により変動するが、今年のラニーニャ現象が、世界的な作物生産や国際需給にどのような影響を与えるか、今後の動向を注視していきたい。

資料 1 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2013年以降低下で推移も、2022年9月以降、インドの輸出規制導入と強化、インドネシアのエルニーニョによる減産を受けた需要増等から上昇。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



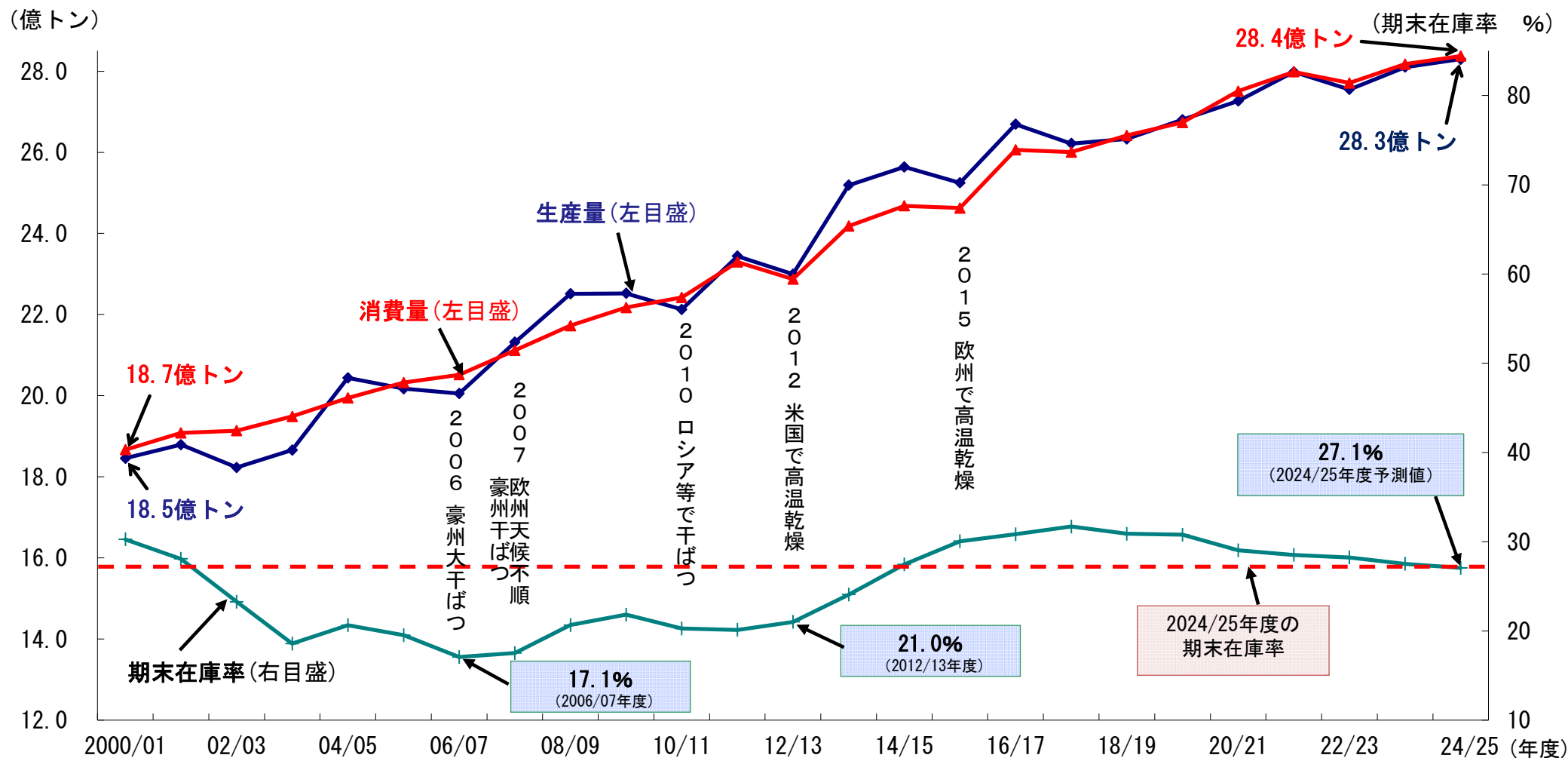
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.1%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

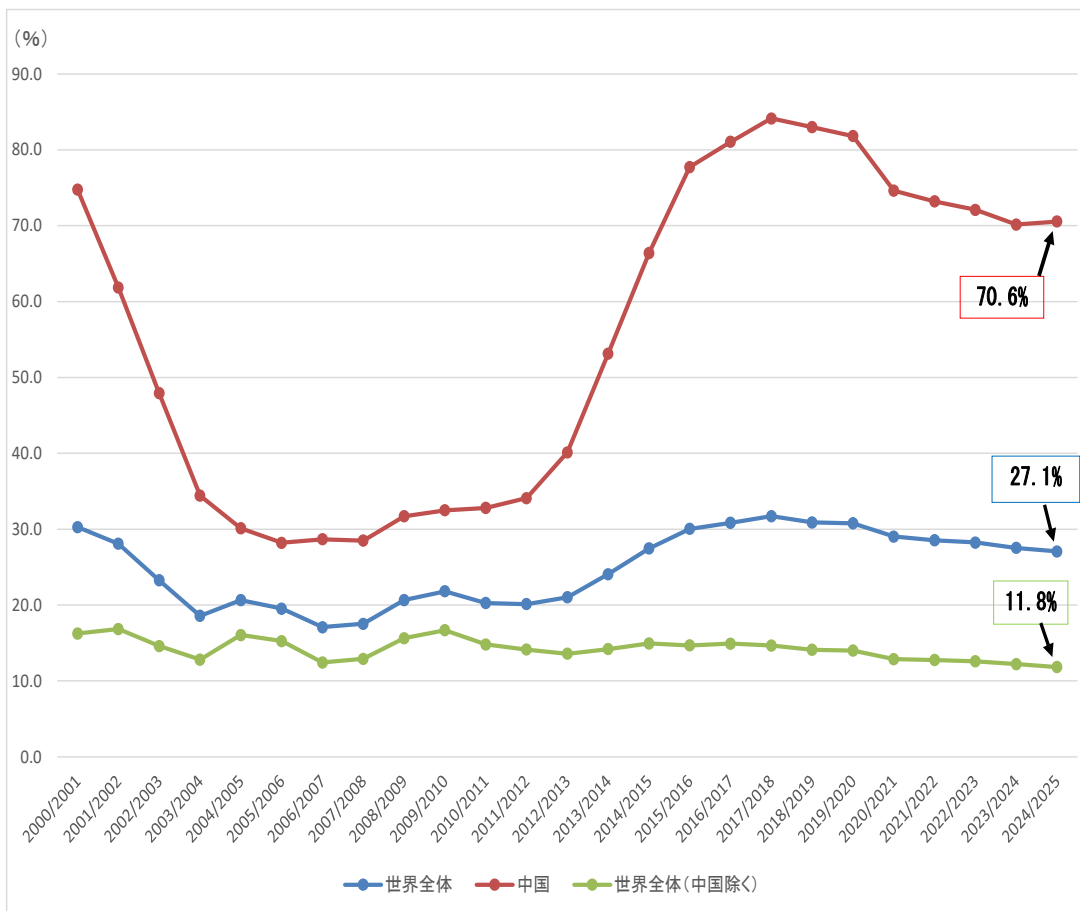


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 2024)、「PS&D」

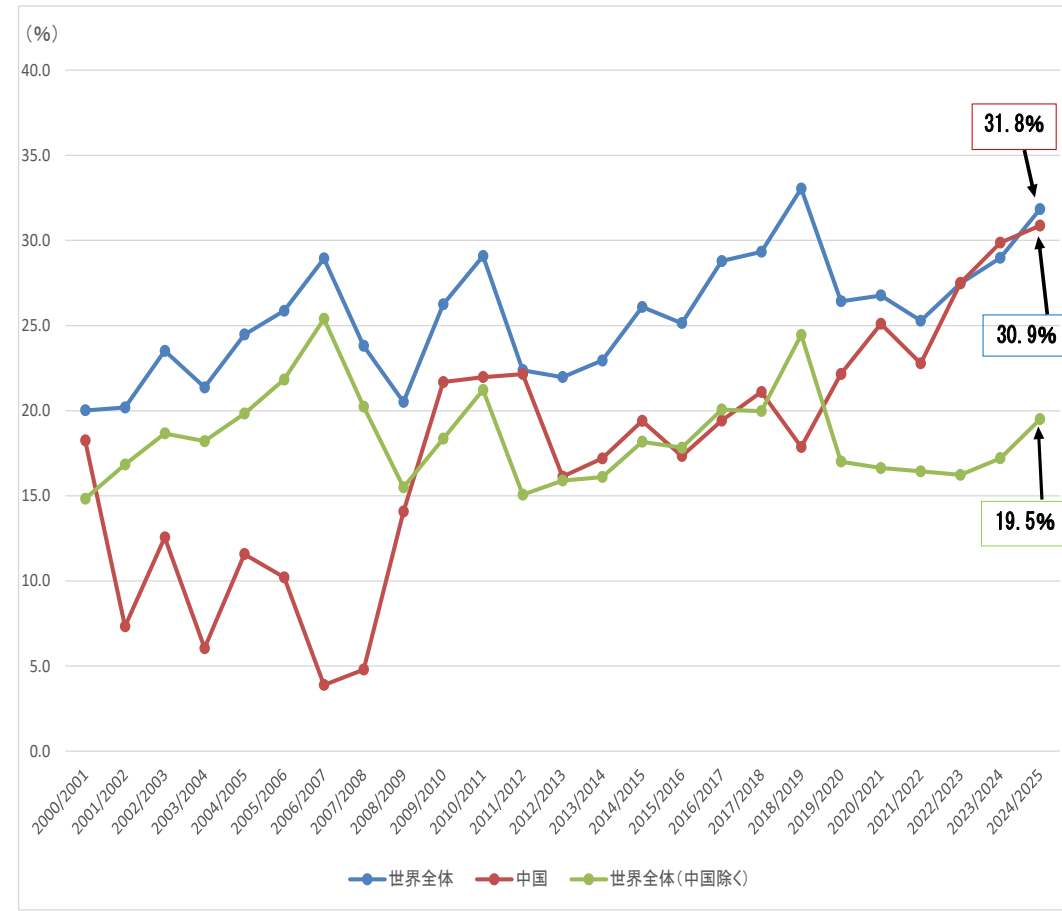
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(June 12, 2024)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

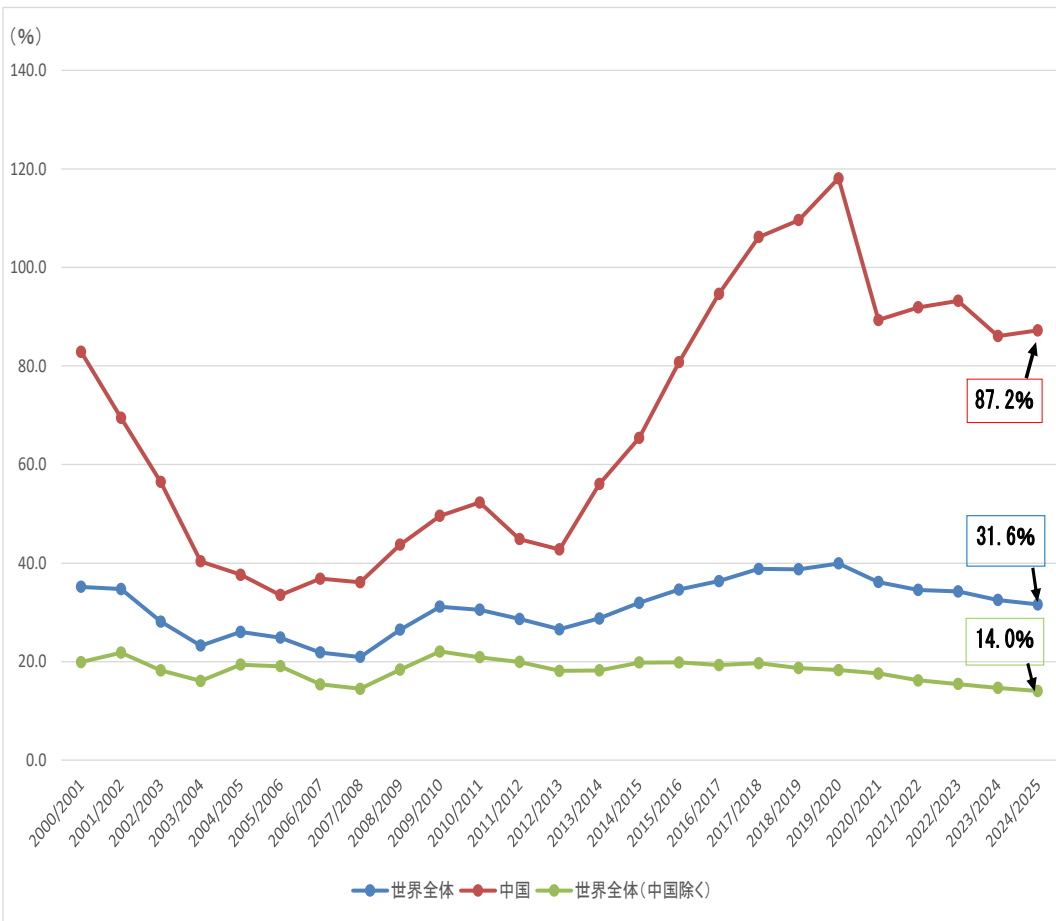
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

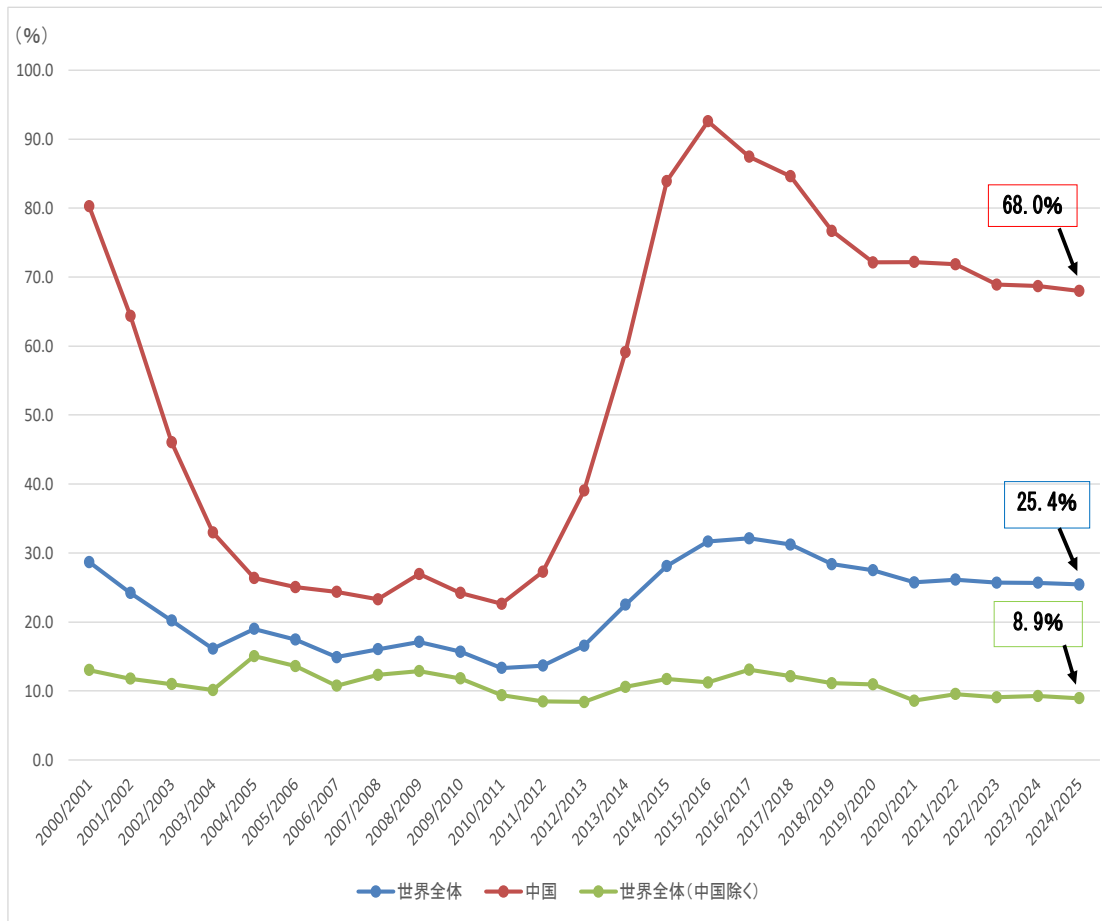
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



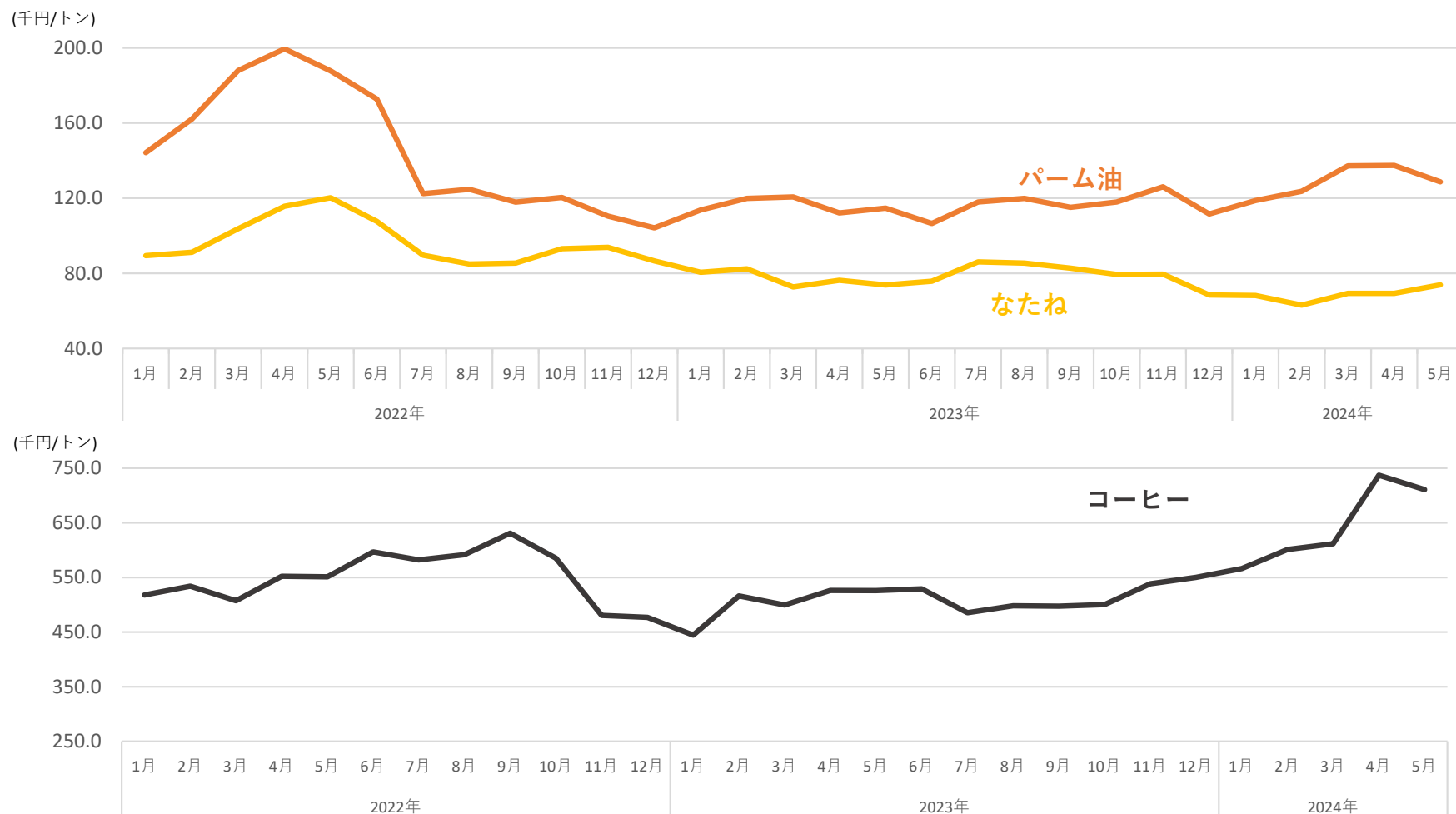
○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(June 12, 2024)
 注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
 2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100
 3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100
 4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油の需要の面では、世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などにより市場価格上昇の要因となっている。
- なたね、パーム油の供給の面では、なたねについては、**2021年**に主産地であるカナダで減産があったが、**2022年以降**は回復基調から平年並みの収量に近づいた。パーム油については、インドネシアの輸出禁止措置（**2022年5月23日**解除）があったが、マレーシアの生産量の増加によって供給不足の懸念が払拭された。いずれも**2022年**の高値からは落ち着きが見られるものの、依然高止まりしている。
- コーヒーについて、**2021年以降**、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、**2024年以降**は再び市場価格が高騰している。



2024年6月21日現在
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油
128.7千円/トン
199.5千円/トン
(2022.4)

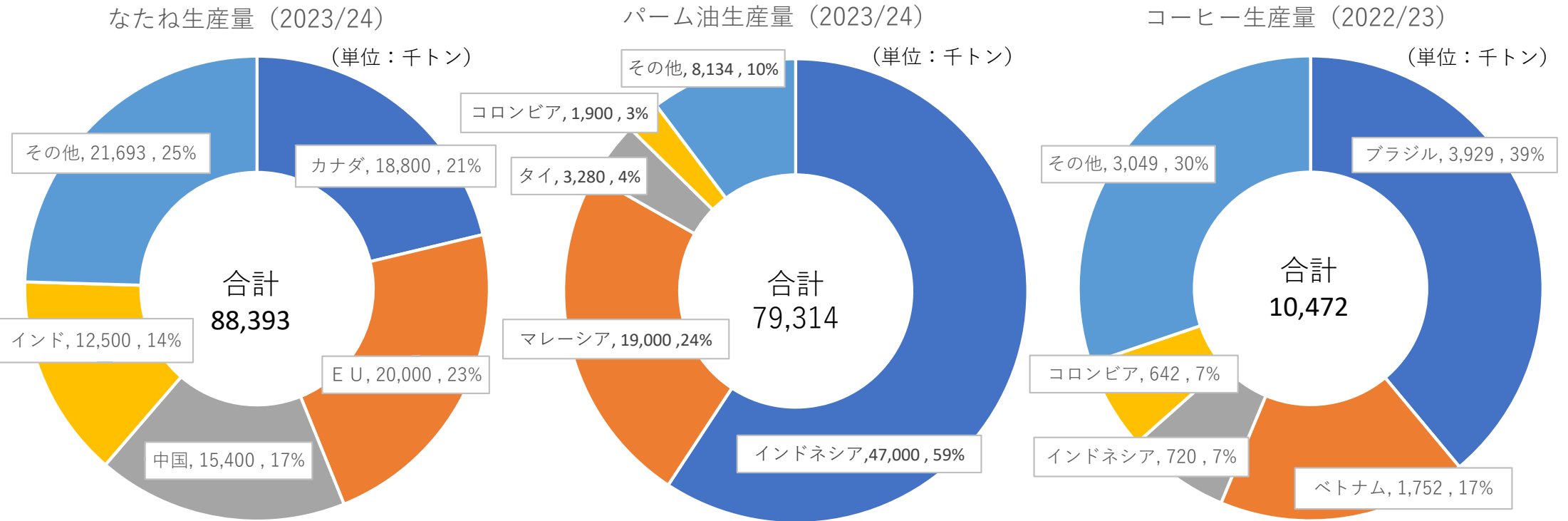
なたね
73.9千円/トン
120.3千円/トン
(2022.5)

コーヒー
710.8千円/トン
737.0千円/トン
(2024.4)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィネベグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年 6 月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%	マレーシア	574	85.6%	ブラジル	124	35.0%
オーストラリア	983	48.6%	インドネシア	96	14.4%	ベトナム	99	27.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.1%	コロンビア	34	9.6%
合計	2.022	100.0%	合計	671	100.0%	その他	98	27.6%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね 単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	89.4	91.2	103.7	115.7	120.3	107.7	89.6	85.0	85.5	93.1	93.8	86.6	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9							
前月比	100.6	102.0	113.8	111.5	104.0	89.5	83.3	94.8	100.6	108.9	100.8	92.3	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6							
前年同月比	164.3	148.3	148.1	162.0	143.9	139.8	115.1	109.1	112.3	110.1	101.5	97.5	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油 単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	144.2	162.2	188.0	199.5	187.8	172.8	122.4	124.7	117.9	120.4	110.4	104.2	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7							
前月比	112.5	112.4	115.9	106.1	94.1	92.0	70.9	101.9	94.5	102.1	91.7	94.4	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7							
前年同月比	155.0	157.5	166.6	184.4	151.2	177.3	110.5	103.7	98.1	85.9	77.0	81.3	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシヤパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8							
前月 比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5							
前年 同月 比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年5月の国内の加工食品の消費者物価指数は113.2～153.4（前年同月比で-10.0%～11.8%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省）
（令和5年12月～令和6年5月）

	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6					
品目	平均	平均	平均	平均	平均	12月	1月	2月	3月	4月	5月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.2	101.1	100.0	99.2	110.3	122.7	122.1	121.8	122.1	121.9	121.7	5.5%
即席めん	95.3	98.5	100.0	100.1	107.6	122.2	122.2	125.2	123.9	123.5	124.6	11.8%
豆腐	98.8	99.1	100.0	101.3	105.3	117.2	116.9	117.5	117.6	118.0	117.9	2.9%
食用油 (キャノーラ油)	101.5	100.9	100.0	106.9	144.4	153.2	152.8	151.3	148.3	148.0	147.8	-10.0%
みそ	97.4	99.1	100.0	99.3	101.3	111.0	111.5	112.6	112.9	113.3	113.2	5.1%
マヨネーズ	100.8	100.7	100.0	105.6	125.6	154.7	153.5	154.2	153.4	153.7	153.4	0.7%
チーズ	100.9	101.3	100.0	98.7	107.5	131.3	133.0	132.7	134.5	135.3	130.5	-3.0%
バター	99.5	99.9	100.0	99.9	99.2	115.5	119.0	119.1	118.8	120.2	120.5	8.3%
生鮮食品を 除く食料	97.9	99.0	100.0	100.2	104.1	115.1	115.0	115.1	115.3	115.5	115.7	3.2%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料：総務省消費者物価指数

【参考】
食品価格動向調査（農林水産省）
（令和5年12月～令和6年6月）

	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6							
品目	平均	平均	平均	平均	平均	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	97.9	101.3	100.0	98.6	107.8	118.6	117.6	117.4	118.6	115.0	117.8	118.9	0.9%	5.8%
即席めん	92.4	97.9	100.0	99.2	105.6	121.6	119.8	121.0	121.0	117.3	119.8	114.9	-4.1%	7.2%
豆腐	100.1	100.9	100.0	100.6	103.7	114.6	114.6	114.6	115.0	118.9	116.7	115.0	-1.5%	2.3%
食用油 (キャノーラ油)	97.9	103.5	100.0	104.1	140.7	153.3	153.3	151.4	150.5	145.1	145.1	144.1	-0.7%	-10.0%
みそ	96.6	100.4	100.0	99.2	100.1	110.6	110.2	110.4	110.2	106.7	108.1	109.2	1.0%	3.0%
マヨネーズ	97.9	103.1	100.0	102.2	117.7	143.7	144.1	144.4	143.4	140.3	138.6	141.3	1.9%	-2.9%
チーズ	98.6	100.9	100.0	98.1	105.7	122.3	125.8	128.8	129.8	123.8	120.8	127.8	5.8%	-7.3%
バター	99.0	99.5	100.0	99.8	99.1	115.0	118.3	118.5	118.5	119.7	119.4	119.7	0.3%	8.3%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。
 注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。
 注3：調査結果は調査期間中の平均値で算出。
 注4：令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2024年7月号（6月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）24年第1四半期の牛肉輸出量は前年同期比5.9%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003289.html

（豪州）24年第1四半期の牛肉生産量はわずかに減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003290.html

（中国）牛肉生産量は増加、輸入量も引き続き増加傾向で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003291.html

◆豚肉

（EU）主要生産国の豚肉生産量、前年同月を上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003292.html

（チリ）24年1～3月の豚肉生産量は前年同月比で1.9%減、輸出量は同14.1%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003293.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

（米国）24年4月の生乳生産量は前年同月比0.4%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003296.html

（EU）24年4月の生乳取引価格、4カ月連続で前月並み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003297.html

（NZ）GDT平均取引価格は上昇も、24/25年度の生産者支払乳価は慎重な設定

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003298.html

（中国）生乳生産量はさらに増加、乳製品輸入量は引き続き低水準

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003299.html

※GDT価格…グローバルデイトリートレード価格

◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）主要国のトウモロコシ生産量は微減するも、期末在庫は高水準の見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003300.html

（世界：大豆）24/25年度の大豆需給予測、生産量、輸出量ともに増加見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003301.html

（米国）米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に引き続き下落

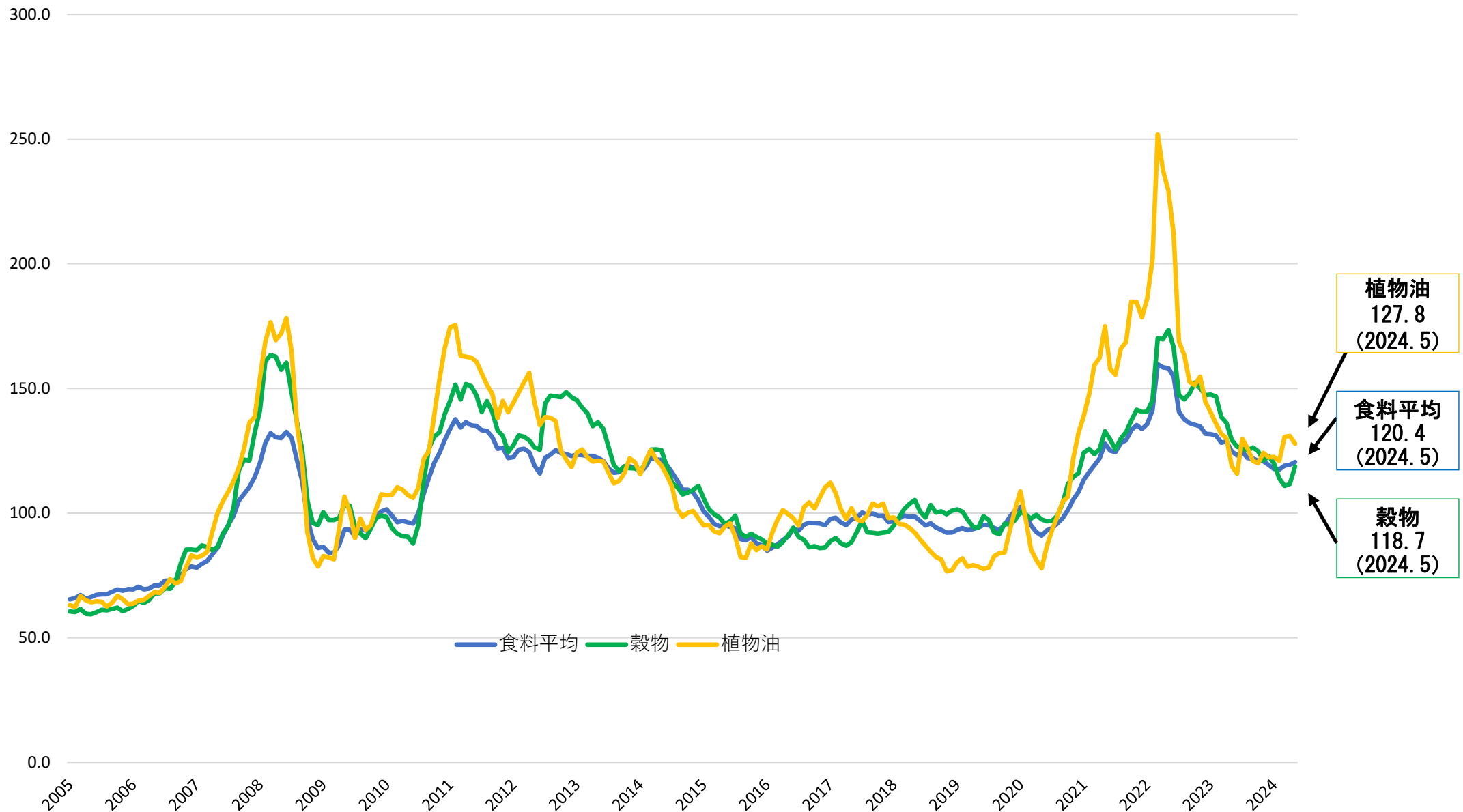
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003302.html

（中国）24/25年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003303.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.5)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

フランスの食事情について

フランスにおいてスーパーマーケットで買い物をしていると、「Bio（有機）」の食品が日本よりも多いと感じます。大使館の現地職員と話をしていても、有機食品を購入しているという話をよく聞きます。このようにフランスで生活しているとよく話題となる有機食品について、御紹介いたします。

フランスでは、消費者のエコロジーや健康志向への関心等から有機食品市場が拡大を続け、2011年から2021年で3倍に増加してきました。家庭での食品購入についても、有機食品が占める割合が増加し、2021年には約6.6%を占めておりました。



写真 1：スーパーに並ぶ有機食品



フランス国内の有機認証ロゴ
AB (Agriculture Biologique) マーク



写真 2：有機の肉製品

一方で、近年のインフレの影響もあり、通常の食品と比較すると一定程度価格が高い有機食品は、その市場が減少傾向となり、2022年の有機食品市場は2021年と比べて4.6%、5億8,200万ユーロ減少し、特に有機専門店での売上げが2021年と比べて8.6%と大幅に減少する状況となっています。

有機食品市場の拡大を背景に有機農業の生産を拡大し続けてきたフランスでは、有機農業を営む農家の経営が悪化し、未曾有の危機に直面しているとも言われています。有機農業を営む農家の中には、慣行農法に回帰する者も現れ、政府としても対応が必要となりました。

このため、フランス政府は、2023年5月に営業総余剰（減価償却費等の控除前の利益）が2割以上減少するなどの条件を満たした農家に対して、営業総余剰の損失の50%まで補償する有機農業部門への緊急支援策を発表し、6,000万ユーロの予算を確保しました。この支援策への申請は、6,000万ユーロの予算枠を超え、最終的には9,400万ユーロに達し、同年12月には緊急支援策の予算の増額を発表するなど、フランス政府の当初の想定よりも有機農業部門への影響が大きくなっています。

このような緊急支援策に加えて、有機食品の需要の回復を支援するためのキャンペーン等を実施することで、需要低迷による有機農業部門の危機的な状況を克服しようとしています。インフレの影響もあり、有機食品市場の回復には一定程度時間を要すると考えられ、2024 年 1 月以降のフランス全土で行われた農業者による抗議活動にも影響を与えました。フランス農政にも大きな影響を与える有機食品をめぐる情勢について、引き続き注視してまいりたいと考えています。

文責：加藤 憲（在フランス日本国大使館一等書記官）

【データ・出典】

- ・ EU への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（2022、2023）
- ・ 仏農業・食料主権省ホームページ (<https://agriculture.gouv.fr/agriculture-biologique-mise-en-oeuvre-du-plan-de-soutien-specifique-lagriculture-biologique-de-60>)

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴や考え方、また、日本の食料品や文化等に対するイメージなどについてもご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比  前月比 

- ・アルゼンチン、米国等で上方修正されたものの、ロシア、ウクライナ、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

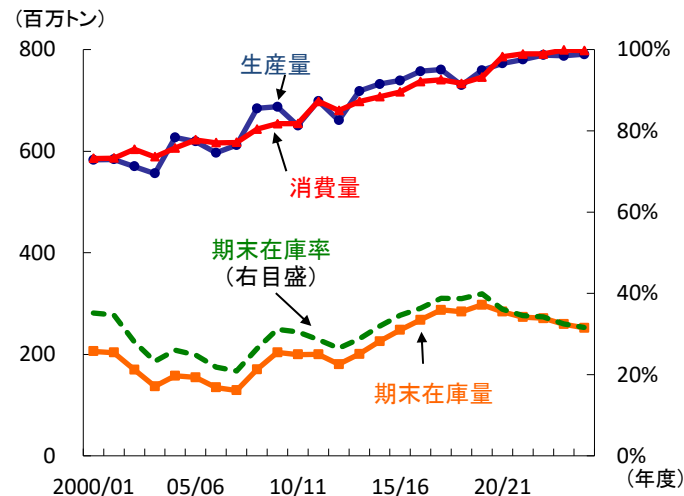
消費量 前年度比  前月比 

- ・中国、バングラデシュ等で上方修正されたものの、EU、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上2番目の見込み。

輸血量 前年度比  前月比 

- ・EU、米国等で上方修正されたものの、ロシア、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



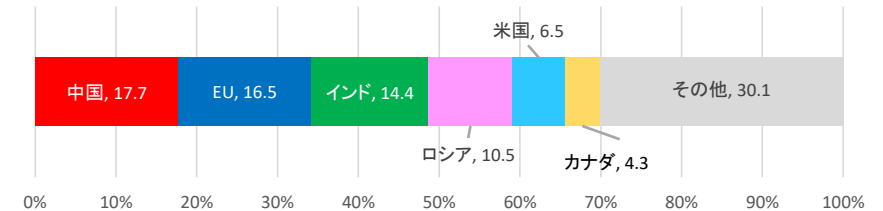
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

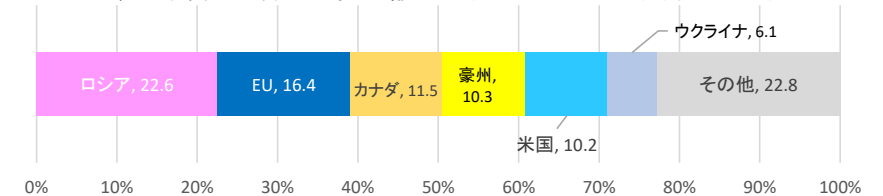
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.2	787.6	790.8	▲ 7.4	0.4
消費量	791.4	799.1	798.0	▲ 4.3	▲ 0.1
うち飼料用	154.9	158.5	147.7	▲ 4.0	▲ 6.8
輸血量	220.7	219.0	212.8	▲ 3.2	▲ 2.8
輸入量	212.1	217.2	207.1	▲ 2.3	▲ 4.7
期末在庫量	271.0	259.6	252.3	▲ 1.3	▲ 2.8
期末在庫率	34.2%	32.5%	31.6%	0.0	▲ 0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 June 2024)

○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(790.8百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸血量(212.8百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(207.1百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は上方修正され 51.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 51.0 百万トンと、前年度と比べ 3.5%増、過去 5 年平均(48.2 百万トン)と比べても 5.8%増となる見込み。

種類別には、冬小麦が天候に恵まれハード・レッド・ウインター(HRW)の収穫量が増加したことを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され前年度比 4 %増の 35.2 百万トン、春小麦及びデュラム小麦が前月予測からの変更はなく前年度比 3 %増の 15.8 百万トンとなる見込み。同「Wheat Outlook」(2024.6.14)によれば、2024/25 年度の品種別生産量は、HRW は、前月予測からカンザス州及びモンタナ州の実生産量が増加することを受け 0.6 百万トン上方修正され、干ばつからの回復で前年度から収穫面積と単収が増加することにより前年度比 21%増の 19.8 百万トンとなる見込み。他方、ソフト・レッド・ウインター(SRW)及びホワイト・ウインター(WW)は、前月予測から両品種合計で 0.1 百万トン下方修正され、SRW が前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等もあり前年度比 24%減の 9.3 百万トン、WW が単収の増加から同 14%増の 6.2 百万トンとなる見込み。

同「Crop Progress」(2024.6.10)によれば、6 月 9 日現在、冬小麦の収穫進捗率は 12%と前年度同期の 7 %、過去 5 年平均の 6 %をいずれも上回っている。作柄は「やや良～良」の割合が 47%と、干ばつの影響があった前年度同期の 38%を 9 ポイント上回っている。また、春小麦の作付進捗率は 98%とほぼ終了。作柄は「やや良～良」の割合が 72%と、適時の降雨と適度な気温により前年度同期の 60%を 12 ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、増産による輸出余力の増加に加え、ロシア及びウクライナの減産による輸出量の下方向修正に伴う米国産の相対的な価格競争力の高まり等を受けて前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 21.8 百万トンと、前年度と比べ 11.1%増で 4 年ぶりの高水準となるものの、過去 5 年平均(23.1 百万トン)比では 5.6%減となる見込み。6 月 10 日時点の FOB 価格は、米国産は冬小麦の収穫が始まり 1 トン当たり 6 ドル下落し 280 ドルとなる一方、カナダ産は 291 ドル、アルゼンチン産及び豪州産いずれも供給の減少等から上昇し、アルゼンチン産 294 ドル、豪州産 301 ドルとなっており、米国産の価格競争力が高まっている。

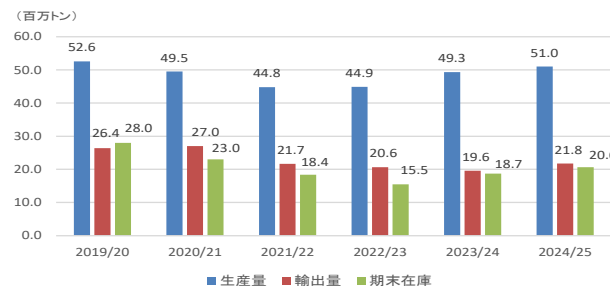
2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 20.6 百万トンとなるものの、前年度に比べ 10.3%増加し 4 年ぶりの高水準。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.3	51.0	0.5	3.5
消費量	30.4	30.3	30.6	-	0.9
うち飼料用	2.1	2.5	2.7	-	11.0
輸出量	20.7	19.6	21.8	0.7	11.1
輸入量	3.3	3.8	3.3	-	▲ 14.2
期末在庫量	15.5	18.7	20.6	▲ 0.2	10.3
期末在庫率	30.4%	37.5%	39.4%	▲ 0.9	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.37	-	1.9
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.32	0.03	1.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 June 2024)

図：米国の小麦の生産量・輸出量等の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省で作成

写真 米国オレゴン州の冬小麦の圃場 (2024.6.3)



オレゴン州ワスコ郡の冬小麦の圃場。天候に恵まれ順調に生育している。

撮影者：ジョッシュ・ドゥーリング氏

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度比 8.3%増の 34.6 百万トンの見込み

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.6.20)によれば、2024/25 年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく 34.6 百万トンと、干ばつの影響を受け減産となった前年度に比べ 8.3%増、過去 5 年平均と比べ 10.3%増加する見込み。

種類別の生産量は、普通小麦、デュラム小麦ともに前月予測からの変更はなく、それぞれ 28.9 百万トン(前年度比 3.7%増、過去 5 年平均比 9.3%増)、5.7 百万トン(同 39.8%増、15.6%増)の見込み。

「Canadian Drought monitor」(2024.5.31)によれば、春小麦の主要産地であるプレーリー平原では、3 月までは乾燥天候であったものの、4、5 月に降雨に恵まれたことから作柄は前年度に比べ改善している。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、6 月 10 日現在、春小麦及びデュラム小麦の作付けはほぼ終了。気温の低下と播種の遅れにより生長は例年よりも遅れているものの、「やや良～良」の作柄の割合は春小麦が 87% (前年度同期 81%)、デュラム小麦が 93% (同 72%) と干ばつだった前年度に比べ改善している。アルバータ州では、6 月 11 日現在、春小麦の作付けは終了。出芽進捗率は低温により 92.7%と、前年度(前年 6 月 5 日 97.3%)を下回っている。マニトバ州では、6 月 11 日現在、春小麦の作付進捗率は 98%と作付けはほぼ終了し、早播きの春小麦は 3～5 葉期となっている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測に比べ 0.3 百万トン上方修正され、前年度比 5.5%増の 25.0 百万トンの見込み。種類別には、普通小麦は高タンパク質小麦の堅調な世界需要を受け前年度に比べ 0.5%増加し 20.5 百万トン。デュラム小麦も生産量の回復による輸出余力の増加を受け、前年度比 36.4%増の 4.5 百万トンとなる見込み。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2024 年 4 月の輸出量は 253.5 万トン。種類別には、普通小麦は 212.6 万トンで、輸出先国は中国(19.6%)、インドネシア(15.8%)、日本(8.9%)の順。また、デュラム小麦は 40.9 万トンで、モロッコ(35.9%)、アルジェリア(18.3%)、イタリア(16.4%)の順。普通小麦の中国向け輸出シェアは、2022/23 年度は 15.1%で第 1 位、2023/24 年度のうち 2023 年 8 月～2024 年 4 月の間も 16.5%と同じく第 1 位である。USDA によれば、デュラム小麦のカナダが占める輸出シェアはほぼ毎年 50%以上であったものの、2023 年 7～2024 年 3 月の間は干ばつによる減産を受け 43%となり前年度同期の 70%から大きく低下した。この間、主要輸入国のうちイタリアは輸入先をカナダからトルコ、ロシア等へシフトした。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は 3.2 百万トンと前年度に比べ 16.0%減の見込み。

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	34.3	32.0	34.0 (34.6)	-	6.4	
消 費 量	9.5	9.2	9.3 (9.3)	-	1.1	
うち飼料用	4.3	4.0	4.0 (5.0)	-	-	
輸 出 量	25.6	25.0	24.5 (25.0)	-	▲ 2.0	
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.2)	-	▲ 8.3	
期末在庫量	3.5	1.9	2.6 (3.2)	▲ 0.5	40.1	
期末在庫率	10.0%	5.5%	7.8% (9.2%)	▲ 1.5	2.3	

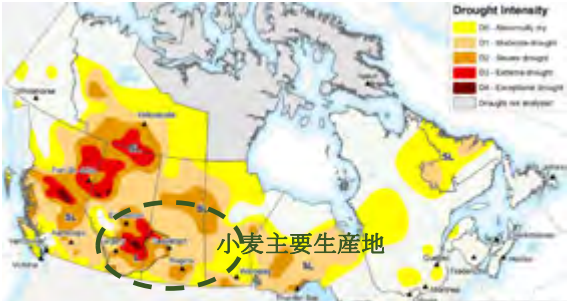
(参考)

収穫面積(百万ha)	10.08	10.68	10.70 (10.73)	-	0.2
単収(t/ha)	3.41	2.99	3.18 (3.23)	-	6.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 June 2024)

図 カナダの干ばつの推移(2024 年 4 月 30 日、2024 年 5 月 31 日)

＜2024 年 4 月 30 日＞



＜2024 年 5 月 31 日＞



D0: 異常な乾燥 D1: 中程度の干ばつ D2: 深刻な干ばつ
D3: 極度の干ばつ D4: 例外的な干ばつ

資料：AAFC「Canadian drought monitor」(2024. 5. 31、2024. 4. 30)

< 豪州 > 2024/25 年度の生産量は 29.1 百万トンの見込み

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2024.6.4)によれば、2024/25 年度の実生産量は、エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加（収穫面積は前年度比 2.6%増、単収は同 9.2%増）することを受け 29.1 百万トンと、前年度と比べ 12.1%増、過去 10 年平均(26.6 百万トン)と比べても 9.6%増となる見込み。

主要生産州では、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)の実生産量は、収穫面積が前年度から 1.1%増加し 4.7 百万ヘクタールとなり、単収も降雨不足であった前年度から増加することを受け 8.5 百万トンと、前年度に比べ 10.4%増加する見込み。なお、作付け時の土壌水分は、平年以下か大幅に下回っていたものの、5 月の降雨により一部地域を除き土壌水分が改善した。また、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)の実生産量は 9.8 百万トンと、作付け時の土壌水分が平年以上であったこと等により収穫面積が前年度から 9.1%増加し 3.6 百万ヘクタールとなることや、単収も降雨不足であった前年度から増加することを受け前年度に比べ 38.1%増加する見込み。なお、5 月 23 日現在、同州の降雨量は平年並みとなっている。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) (2024.6.14)によれば、WA 州では、6 月初めは州の大部分で非常に乾燥した状態であったものの、その後、南部沿岸地域を除き十分な降雨に恵まれた。2024/25 年度の同州の小麦作付面積は、なたねの発芽不良により小麦に蒔き直しを行ったこと等を受け、前月予測から 0.3 百万ヘクタール上方修正され 5.0 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度の実生産量が減少し、輸出可能な在庫が減少したことを受け 19.9 百万トンと、前年度に比べ 13.1%減となるものの、中国と東南アジアの旺盛な需要に支えられることもあり、過去 10 年平均(19.0 百万トン)と比べれば 4.5%増となる見込み。

2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 4 月の輸出量は 1,718.3 万トンと、前年度同期 (1,957.2 万トン) に比べ 12.2%減少しており、乾燥により生産量が減少したことが輸出量減少の主因。このうち、2024 年 4 月の輸出量は 186.2 万トンで、前年度同期 (304.6 万トン) に比べ 38.9%減少しており、輸出先国は、中国(29.5%)、イエメン(9.9%)、インドネシア(8.3%)の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の下方修正等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 3.8 百万トンと、前年度に比べ 5.6%増となる見込み。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	40.6	26.0	29.0 (30.1)	-	11.5
消 費 量	8.0	7.0	7.0 (8.3)	-	-
うち飼料用	4.5	3.5	3.5 (4.5)	-	-
輸 出 量	31.8	20.0	22.0 (21.5)	▲ 0.5	10.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	4.4	3.6	3.8 (2.5)	1.0	5.6
期末在庫率	11.0%	13.2%	13.0% (8.6%)	3.6	▲ 0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	13.05	12.50	12.50 (12.50)	-	-
単収(t/ha)	3.11	2.08	2.32 (2.41)	-	11.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移

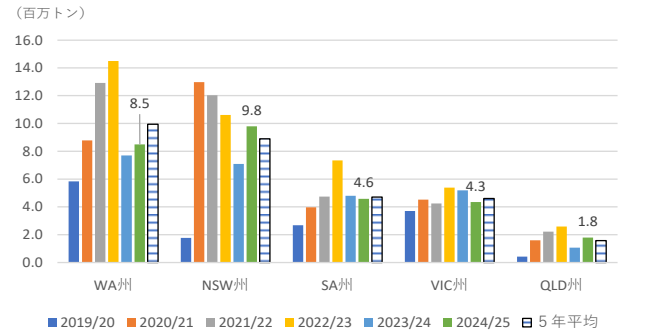


表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2024年4月		2023年10月～2024年4月		2022年10月～2023年4月	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア
中国	54.9 29.5%	中国	416.6 24.2%	中国	547.2 28.0%
イエメン	18.4 9.9%	インドネシア	272.0 15.8%	インドネシア	256.8 13.1%
インドネシア	15.5 8.3%	フィリピン	160.8 9.4%	フィリピン	177.8 9.1%
フィリピン	13.6 7.3%	イエメン	129.3 7.5%	韓国	175.9 9.0%
日本	12.6 6.7%	ベトナム	118.2 6.9%	ベトナム	161.2 8.2%
南アフリカ	9.2 5.0%	日本	104.3 6.1%	タイ	123.7 6.3%
その他	62.0 33.3%	その他	517.1 30.1%	その他	514.6 26.3%
計	186.2 100.0%	計	1,718.3 100.0%	計	1,957.2 100.0%

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の生産量は 127.1 百万トンの見込み

【生育・生産状況】欧州委員会(2024.5.30)によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 127.1 百万トンと、2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、降雨過多等により収穫面積及び単収がともに減少することを受け、前年度と比べ 4.1%減少する見込み。

このうち、普通小麦は 120.2 百万トンと、前年度比 4.2%減、5 年平均比でも 5.2%減となる見込み。デュラム小麦も 6.8 百万トンと、前年度比で 2.3%減、5 年平均比でも 7.7%減となる見込み。小麦全体の国別では、スペインが干ばつからの回復により前年度比 56.2%増の 6.2 百万トンとなった一方、フランスが降雨過多等を受け前年度比 9.1%減の 32.7 百万トン、ドイツも前年度比 11.3%減の 19.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ウクライナの減産を受け同国からの輸入が減少することから、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 10.0 百万トンと、前年度比 23.1%減となるものの、過去 5 年平均(8.2 百万トン)と比べると 22.7%増となる見込み。前年度からの減少は、ウクライナの減産に伴い同国からの輸入量が減少するほか、EU 全体としては小麦は減産となるものの、大麦及びとうもろこしの増産に伴い飼料用小麦の輸入が減少することが要因。

2024/25 年度の輸出量は、黒海産小麦の輸出量の減少に伴う EU 産の相対的な価格競争力の高まり等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正されるものの、主要輸出国であるフランス等での降雨過多を受け減産すること等により前年度比 5.4%減、他方、過去 5 年平均(34.7 百万トン)と比べれば 0.8%増の 35.0 百万トンの見込み。

欧州委員会によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月から 2024 年 3 月までの輸出量は、普通小麦が 2,795.7 万トンで、前年度同期に比べ 13.4%増。同期間の輸出先国別のシェアは、モロッコ 14.5%、アルジェリア 10.3%、ナイジェリア 8.9%、中国 8.2%の順。また、デュラム小麦は 58.0 万トンで、前年度同期に比べ 17.7%減。同期間の輸出先国別のシェアは、チュニジア 27.7%、スリランカ 10.4%、英国 9.9%、コートジボワール 8.4%の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量及び輸入量が減少することを受け、前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、前年度と比べても 24.7%減の 11.4 百万トンとなり、史上 2 番目に低い水準となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

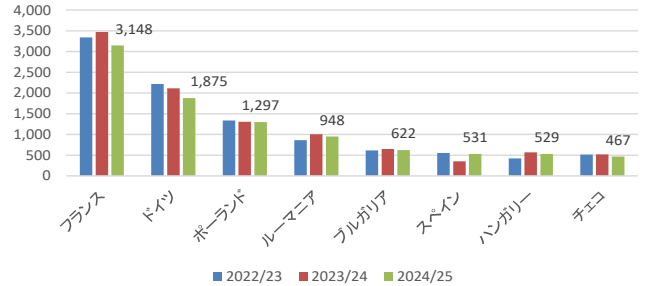
(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.2	130.5 (129.3)	▲ 1.5	▲ 2.7
消費量	109.0	111.0	109.3 (108.5)	▲ 2.0	▲ 1.6
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (44.5)	▲ 2.0	▲ 4.3
輸出量	35.1	37.0	35.0 (32.8)	1.0	▲ 5.4
輸入量	12.2	13.0	10.0 (6.9)	▲ 1.0	▲ 23.1
期末在庫量	16.0	15.2	11.4 (14.3)	▲ 3.0	▲ 24.7
期末在庫率	11.1%	10.3%	7.9% (10.1%)	▲ 2.0	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	24.20	23.40 (22.74)	-	▲ 3.3
単収(t/ha)	5.50	5.54	5.58 (5.69)	▲ 0.06	0.7

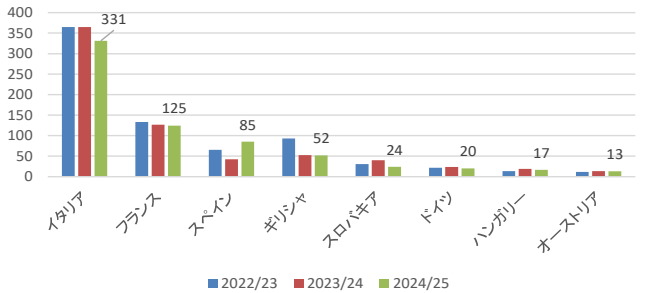
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 EU27 の普通小麦及びデュラム小麦生産量の推移

○普通小麦
(万トン)



○デュラム小麦
(万トン)



資料：欧州委員会「EU cereals production ,area and yield」
(2024. 5. 30)をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の冬小麦の収穫は順調

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測から変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均(135.8 百万トン)と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中央气象台「全国農業気象月報」によれば、5 月の天候は、河南省を始め大部分の冬小麦産地では、日照・気温ともに十分で、乾燥の影響も軽微であり、小麦の十分な成熟及び収穫に適した天候となった。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」の 6 月上旬の情報によれば、2024/25 年度の冬小麦の 6 月上旬現在の生育状況は、大部分の産地で登熟期及び収穫期を迎えている。

農業農村部によれば、6 月 3 日現在の冬小麦の収穫面積は 10.47 百万ヘクタールとなっており、収穫進捗率も 46.3%と、小麦の成熟と収穫に適した天候であったことを受けて前年度同期 33.7%に比べ進展している。産地別には、四川省及び湖北省では収穫が終了し、河南省と安徽省では 80%以上、陝西省では 30%程度、江蘇省では 15%以上、山西省及び山東省では 10%以上となっている。また、2023/24 年度と比較した主要産地の冬小麦の単収は、甘肅省、陝西省、河南省、安徽省及び四川省は前年度比 1.5%以上の増加が予想されており、それ以外の主要産地でも前年度比 1.5%以内の増減に収まり横ばいが予想されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から食用用途等が 1.0 百万トン上方修正され 151.0 百万トンと、前年度と比べ 1.9%減となるものの、過去 5 年平均(146.2 百万トン)と比べると 3.3%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 11.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ 15.4%減少する見込み。中国海関統計によれば、2024 年 1 月から 4 月までの輸入量は 623.6 万トンと、前年に比べ 3.4%増とわずかに増加している。輸出先別には、豪州 246.9 万トン、カナダ 141.0 万トン、フランス 130.5 万トン、米国 69.8 万トンで、カナダ、フランス及び米国の輸入シェアが前年同期から増加した一方、豪州の輸入シェアは、2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 59.6%から 39.6%に減少している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の上方修正等を受け前月予測から 0.6 百万トン下方修正され 132.5 百万トンと、前年度に比べ 0.7%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.7	136.6	140.0	(140.0)	-	2.5
消 費 量	148.0	154.0	151.0	(146.5)	1.0	▲ 1.9
うち飼料用	33.0	37.0	33.0	(28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	0.9	(1.2)	-	▲ 10.0
輸 入 量	13.3	13.0	11.0	(10.7)	-	▲ 15.4
期末在庫量	138.8	133.4	132.5	(142.1)	▲ 0.1	▲ 0.7
期末在庫率	93.2%	86.1%	87.2%	(96.3%)	▲ 0.6	1.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70	(23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91	(5.92)	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 中国の小麦の生産量・輸入量・消費量等の推移

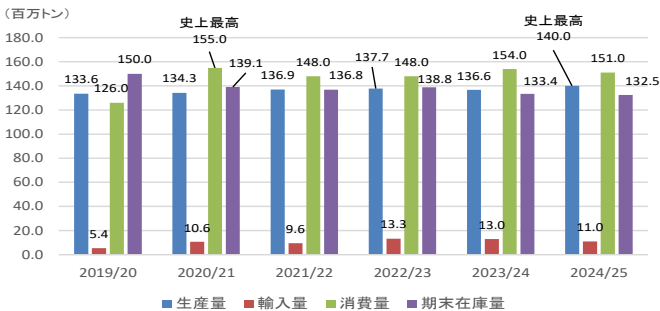


表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国 名	2024年1月～4月		2023年1月～4月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	246.9	39.6	359.8	59.6	693.9	57.4
カナダ	141.0	22.6	110.2	18.3	82.5	6.8
フランス	130.5	20.9	77.5	12.8	254.8	21.1
米国	69.8	11.2	47.5	7.9	92.6	7.7
カザフスタン	21.1	3.4	3.1	0.5	51.9	4.3
ロシア	13.3	2.1	2.8	0.5	28.5	2.4
その他	1.1	0.2	2.5	0.4	5.7	0.5
計	623.6	100.0	603.3	100.0	1,209.9	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の生産量は降霜と乾燥により 83.0 百万トンに下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測から 5.0 百万トン下方修正され 83.0 百万トンと、前年度と比べ 9.3%減となる見込み。ただし、過去 5 年平均(83.5 百万トン)と比べれば 0.6%減に留まる見込み。種類別には、冬小麦は霜害と高温乾燥により前月予測から 5.0 百万トン下方修正され 59.0 百万トンとなった一方、春小麦は前月予測から変更はなく 24.0 百万トンの見込み。

同「World Agricultural Production」(2024.6.12)によれば、生産量の約 7 割を占める冬小麦は、5 月初旬の寒波により主要産地で霜の被害を受けた。また、欧州部の大部分で高温乾燥の影響を受けて生産量が減少する懸念がある。生産量の約 3 割を占める春小麦は、5 月 31 日現在の作付けは 10.4 百万ヘクタールと、乾燥により前年度同期の 13.1 百万ヘクタールに比べ遅れており、過去 10 年で最も遅れている。

小麦全体の収穫面積は、前月予測から 0.4 百万ヘクタール下方修正され 28.1 百万ヘクタールと、前年度と比べ 2.5%減。単収も前月予測から 0.14 トン/ヘクタール下方修正され 2.95 トン/ヘクタールと、前年度と比べ 6.9%減の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の減少を受け前月予測から 4.0 百万トン下方修正され 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 11.1%減となる見込み。他方で、EU 及びウクライナの小麦生産量も減少することもあり、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されており、過去 5 年平均(41.7 百万トン)に比べ 15.1%増と史上 2 番目の輸出量となる見込み。また、デュラム小麦は、欧州への輸出量増加で国内価格が上昇したため、2023 年 12 月～本年 5 月まで輸出禁止措置を導入していたものの、デュラム小麦の作付面積が前年度に比べ 30%増の 1.5 百万ヘクタールとなったことも受け、当該輸出禁止措置の延長は予定されていない。

現地情報会社によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月から 2024 年 5 月までの輸出量は、4,933.2 万トンと、2 年連続の豊作による輸出余力の増加等を受け前年度同期(4,476.0 万トン)を 10.2%上回った。なお、5 月の輸出量は 419.9 万トンで、輸出先国別には、エジプト 61.1 万トン(14.6%)、トルコ 43.4 万トン(10.3%)、ケニア 31.8 万トン(7.6%) の順。6 位はブラジル 15.9 万トン(3.8%)で、2023 年 7 月から 2024 年 5 月までの輸出量は 72.8 万トンと、前年度同期を 51%上回り輸出先国の多角化が進んでいる。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 7.7 百万トンと、消費量及び輸出量は減少するものの、当該減少幅以上に生産量も減少となることから前年度に比べ 30.8%減となる見込み。

小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	92.0	91.5	83.0 (85.5)	▲ 5.0	▲ 9.3
消 費 量	42.0	41.0	38.8 (40.2)	▲ 1.0	▲ 5.5
うち飼料用	19.0	18.0	16.0 (16.5)	▲ 1.0	▲ 11.1
輸 出 量	48.0	54.0	48.0 (46.6)	▲ 4.0	▲ 11.1
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	11.2	7.7 (10.0)	▲ 0.3	▲ 30.8
期末在庫率	16.0%	11.8%	8.9% (11.5%)	0.2	▲ 2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.10 (28.00)	▲ 0.40	▲ 2.5
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.95 (3.05)	▲ 0.14	▲ 6.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 ロシアの小麦の生産量・輸出量等の推移

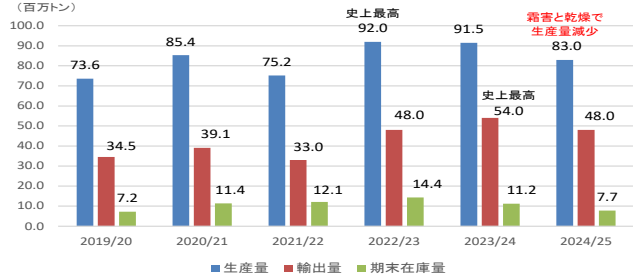


表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年5月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	61.1	14.6	エジプト	771.6	15.6
トルコ	43.4	10.3	トルコ	642.4	13.0
ケニア	31.8	7.6	バングラデシュ	364.6	7.4
バングラデシュ	30.4	7.2	パキスタン	213.0	4.3
イエメン	28.8	6.9	アルジェリア	202.2	4.1
ブラジル	15.9	3.8	カザフスタン	201.6	4.1
イラン	14.2	3.4	サウジアラビア	192.0	3.9
その他	194.3	46.3	その他	2,346.0	47.6
計	419.9	100.0	計	4,933.2	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度の生産量は乾燥により 19.5 百万トンに下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、乾燥により前月予測から1.5百万トン下方修正され19.5百万トンと、前年度と比べ15.2%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)と比べても30.2%減と、2012/13年度に15.8百万トンとなった以降で最小の生産量となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2024.6.12)によれば、3月以降の降水量が平年を下回り、5月も十分な降水量が得られなかったことから、開花や登熟に必要な土壌水分が不足している。収穫面積は、前月予測から変更はなく4.7百万ヘクタールと、前年度と比べ6.2%減となる一方、単収は前月予測から0.32トン/ヘクタール下方修正され4.15トン/ヘクタールと、前年度と比べ9.6%減の見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の春小麦の作付けは終了し、作付面積は0.25百万ヘクタールと、小麦価格の下落から油糧種子等へ作付けが変更となったこと等を受け前年度比6.4%減の見込み。5月末現在の作柄は、冬小麦及び春小麦ともに良好及び平年並みとなっているものの、乾燥の影響により葉の黄変等が一部で発生している。

【貿易状況・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の減少を受け前月予測から1.0百万トン下方修正され13.0百万トンと、前年度と比べ28.2%減。また、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、18.1百万トン)と比べても28.2%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年5月までの輸出量は1,742.9万トンと、前年度同期1,555.1万トンに比べ12.1%増、ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度同期1,597.9万トンと比べても9.1%増となっている。このうち、直近5月の輸出量は165.0万トンとなっており、輸出先国別には、スペイン54.2万トン(32.8%)、インドネシア31.8万トン(19.3%)、エジプト26.1万トン(15.8%)の順で、スペイン向けシェアが高くなっている。これは、スペインにおいて乾燥天候による生産量の減少や飼料用小麦需要の増加等の影響が出ていることによる。

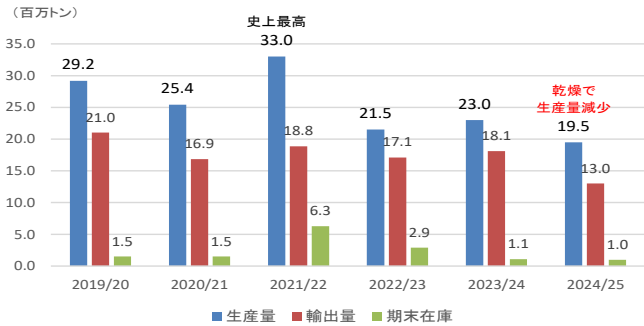
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の下方修正を受け前月予測から0.1百万トン下方修正され1.0百万トンと、前年度に比べ11.1%減となり、史上2番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	21.5	23.0	19.5 (23.7)	▲ 1.5	▲ 15.2
消 費 量	7.8	6.8	6.7 (10.8)	▲ 0.5	▲ 1.5
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (2.1)	▲ 0.5	-
輸 出 量	17.1	18.1	13.0 (13.0)	▲ 1.0	▲ 28.2
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	2.9	1.1	1.0 (1.0)	▲ 0.1	▲ 11.1
期末在庫率	11.6%	4.3%	4.9% (4.1%)	▲ 0.1	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	4.70 (6.00)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.15 (3.95)	▲ 0.32	▲ 9.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量等の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024年5月			2023年7月～2024年5月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	54.2	32.8	スペイン	566.0	32.5
インドネシア	31.8	19.3	エジプト	157.3	9.0
エジプト	26.1	15.8	インドネシア	138.0	7.9
バングラデシュ	9.3	5.6	トルコ	107.3	6.2
ベトナム	8.1	4.9	ルーマニア	100.1	5.7
イタリア	7.4	4.5	パキスタン	81.4	4.7
タイ	7.3	4.4	バングラデシュ	73.7	4.2
アルジェリア	4.5	2.7	イタリア	65.6	3.8
チュニジア	3.4	2.1	ベトナム	62.7	3.6
マレーシア	3.1	1.9	アルジェリア	55.2	3.2
その他	9.9	6.0	その他	335.5	19.2
合計	165.0	100.0	合計	1,742.9	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

・ロシアで下方修正されたものの、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

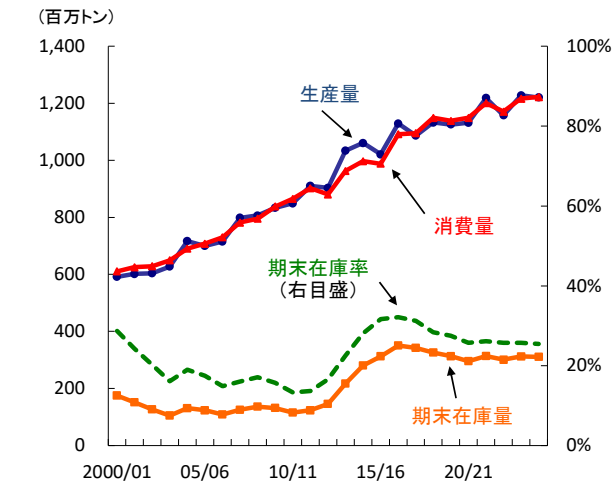
消費量 前年度比 前月比

・ザンビア、マラウィ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ロシア等で下方修正されたものの、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省にて作成

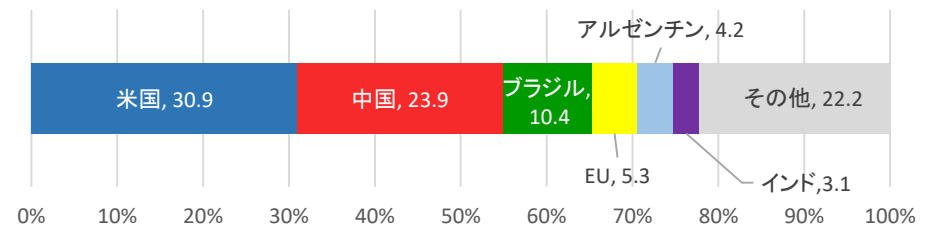
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

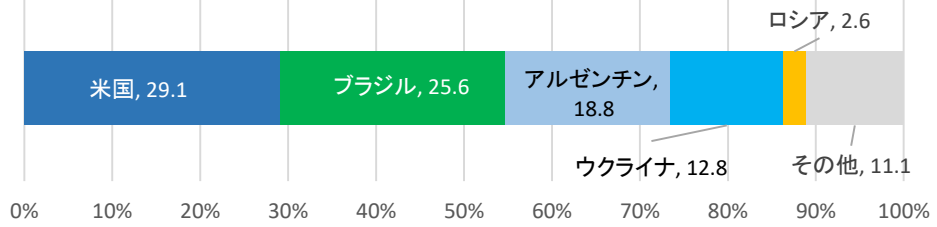
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,158.0	1,228.1	1,220.5	0.6	▲ 0.6
消費量	1,170.8	1,216.7	1,222.2	1.4	0.5
うち飼料用	732.4	760.2	774.4	0.4	1.9
輸出量	180.3	199.1	191.8	0.7	▲ 3.7
輸入量	173.4	186.6	186.2	1.8	▲ 0.2
期末在庫量	300.9	312.4	310.8	▲ 1.5	▲ 0.5
期末在庫率	25.7%	25.7%	25.4%	▲ 0.2	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 June 2024)

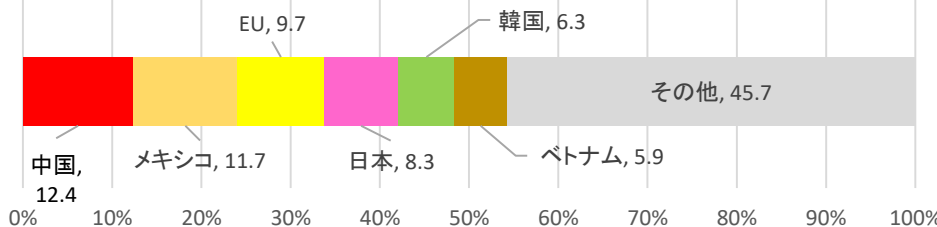
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,220.5 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(186.2 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 3.1%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比 5.1%減）を受け、史上最高の前年度より 3.1%減の 377.5 百万トンの見通し。作付け時の価格は前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.6.10）によれば、作付進捗率は 95%と概ね終了。出芽率は 85%と、前年同期（91%）を下回ったものの、過去 5 年平均（84%）とほぼ同水準。5 月に中西部で降雨があり、作物の出芽に十分な水分量が確保されているとみられる。作柄評価が「良～やや良」の比率は 74%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（61%）を上回っている。作柄を決定する 7 月までの気温と降雨を引き続き注視する必要がある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて、前年度に比べ 0.4%増の 320.2 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、輸出競合国であるブラジルやアルゼンチン、ウクライナからの輸出が減少する一方、メキシコ等からの需要が増大するとの見通しから、前年度より 2.3%増の 55.9 百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）によれば、本年 6 月の米国産の輸出価格は、6 月 7 日現在、作柄が良好で供給増が見込まれることから前月から 4 ドル/トン下落し、200 ドル/トン。なお、2023 年 9 月～2024 年 5 月の輸出量は 3,587 万トンと、前年度同期の 2,580 万トンより 39%増。主な輸出先は、メキシコ（1,127 万トン）、中国（962 万トン）、日本（427 万トン）の順。干ばつにより減産したメキシコ向け輸出量が最も大きくなっている。

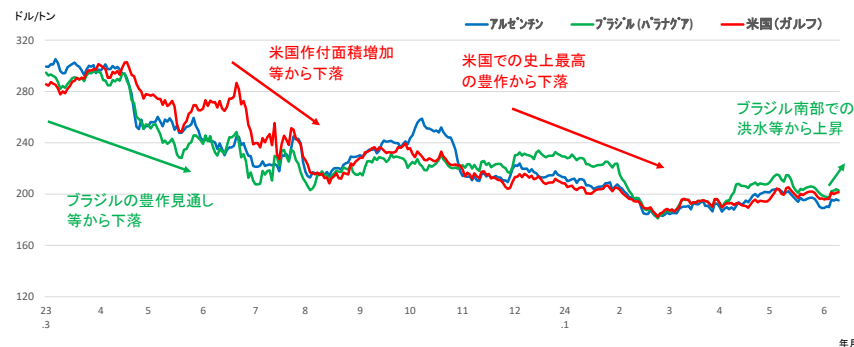
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、昨年の史上最高に次ぐ高水準の実生産量となる見通しを受けて、前年度より 4.0%増の 53.4 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 0.4 ポイント上昇し 14.2%と、過去 3 年平均（11.0%）及び過去 10 年平均（12.4%）をいずれも上回っている。

とうもろこし－米国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予 測 値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	346.7	389.7	377.5	-	▲ 3.1
消 費 量	306.0	318.9	320.2	-	0.4
うち飼料用	139.4	144.8	146.1	-	0.9
エタノール用等	131.5	138.4	138.4	-	-
輸 出 量	42.2	54.6	55.9	-	2.3
輸 入 量	1.0	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	34.6	51.4	53.4	-	4.0
期末在庫率	9.9%	13.8%	14.2%	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.23	-	▲ 5.1
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.36	-	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 June 2024）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は増加の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上第 2 位の生産量となる見通し。この際、エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性がある。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.6.13）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、大豆への作付けシフトによる作付面積の減少や生育初期の高温乾燥等による単収の低下から前年度比 13.5%減の 114.1 百万トンの見込み（P.23 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。収穫終盤を迎えている夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、前年度比 13.7%減の 23.6 百万トンの見込み。冬とうもろこしも、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 13.4%減の 90.5 百万トンの見込み。

5 月上旬、夏とうもろこしの主要生産州である南部のリオ・グランデ・ド・スール州において多雨により洪水が発生した。リオ・グランデ・ド・スール州政府の機関 EMATER/RS の報告（2024.6.4）によれば、同州でのとうもろこしの生産損失は 0.4 百万トンとみられる。

一方、冬とうもろこしは、CONAB によれば、6 月中旬、主要生産州の中西部マット・グロッソ州では登熟期から成熟期にあり、一部地域では収穫が開始され、作柄は良好とみられる。

USDA によれば、6 月上旬、全国的に高温乾燥が広がった。6 月 7 日現在、中西部マット・グロッソ州の収穫進捗率は 11%と、過去 5 年平均（9%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.3%増の 80.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量（前年度の期末在庫量と本年度の実産量の合計）の減少を受けて前年度より 2.0%減の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～5 月の輸出量は 7.5 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年度同期比 29%減。内訳は、中国（1.4 百万トン）、イラン（0.9 百万トン）、エジプト（0.8 百万トン）の順。なお、とうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てくる本年後半以降、冬とうもろこしの収穫を受け本格化するとみられる。

とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

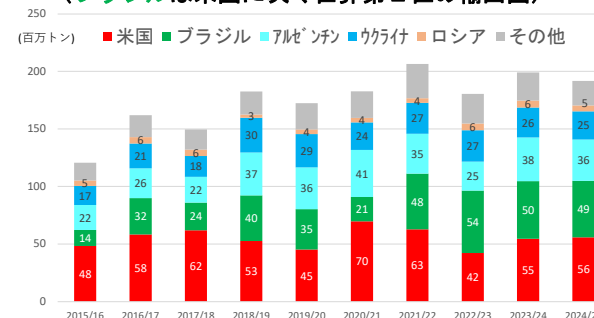
（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	122.0	127.0 (121.5)	-	4.1
消 費 量	78.0	79.5	80.5 (82.2)	-	1.3
うち飼料用	61.5	63.0	64.0 (56.5)	-	1.6
輸 出 量	54.3	50.0	49.0 (40.9)	-	▲ 2.0
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (2.0)	-	15.4
期末在庫量	10.0	3.8	2.8 (5.6)	-	▲ 26.0
期末在庫率	7.6%	3.0%	2.2% (4.5%)	-	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (20.60)	-	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.90)	-	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

（ブラジルは米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国）



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12) をもとに農林水産省にて作成。

＜ アルゼンチン ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から減少する見通し

【生育・生産状況】 USDA によれば、前月予測からの変更はなく、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしの作付面積を減少させる見込みから、史上最高の前年度より 3.8%減となるものの、過去 5 年平均より 1.8%増の 51.0 百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 47%増の 53.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、6 月 6 日時点でとうもろこしの収穫進捗率は前年並みの 46%。USDA によれば、5 月上旬時点で前年同期より収穫が遅れていたものの、6 月上旬、温暖で乾燥した気候により収穫が進展した。

【需要状況】 USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの 14.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】 USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の生産量となった前年度からの減産を受けて、前年度より 5.3%減の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～4 月の輸出量は 11.8 百万トンで、2022/23 年産の減産から回復したことを受け、前年同期（6.5 百万トン）比で 82%増となった。内訳は、ベトナム（2.2 百万トン）、ペルー（1.3 百万トン）、アルジェリア（1.2 百万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。前年 12 月 10 日、右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを引下げ、1 ドル＝800 ペソとした。

また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。

現地情報によれば、アルゼンチンのバイオエコノミー事務局は、本年 5 月、中国を訪問し、GM とうもろこしの輸出に必要な承認が得られたと、声明を発表した。両国は昨年、アルゼンチン産の中国向け輸出について合意したものの、合意以降も検疫の関係で出荷が行われない状況が続いており、前年からブラジル産輸入が増加した中国の輸入多角化の動向を把握する上でも、中国の承認を受けて輸出が実行に移されるか注視する必要がある。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	36.0	53.0	51.0 (60.0)	-	▲ 3.8	
消 費 量	14.2	14.8	14.8 (21.3)	-	-	
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (16.0)	-	▲ 1.0	
輸 出 量	25.2	38.0	36.0 (37.5)	-	▲ 5.3	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (3.1)	-	13.0	
期末在庫率	3.3%	2.9%	3.4% (5.2%)	-	0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6	
単収(t/ha)	5.33	7.57	7.97 (7.28)	-	5.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

写真：北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの

圃場風景（2024 年 5 月 29 日撮影）



本圃場のとうもろこしは 2023 年 12 月末に作付けされ、現在、成熟期にある。実の水分含有量が大きいため、収穫は 7 月に予定されている。

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から増加する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

USDA によれば、6 月上旬、主産地の黒竜江省では、降雨を受けて生育初期の水分状況が良好となり、とうもろこしの生育に好影響を与えている。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」によれば、6 月上旬現在、主産地の黒竜江省では、三葉期から七葉期を迎えている。

一方、報道情報によれば、6 月中旬、河南省や山東省では高温乾燥となり、一部地域では干ばつにより作付けに影響が出ているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大し、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、ブラジル産及びウクライナ産への堅調な需要が続くことから、前年度並みの 23.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～4 月の輸入量は、前年同期比 6.5%増の 908.0 万トン。内訳は、ブラジル（573.6 万トン）、ウクライナ（211.9 万トン）、米国（99.0 万トン）の順。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 4 月号」によると、4 月の国内価格は、一部の貿易業者が小麦の新穀の購入に向けてとうもろこし備蓄を販売し、供給が増加したことから、2,440 元/トンと前月（2,500 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度より 0.9%増の 212.8 百万トンの見込み。

とうもろこしー中国

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	277.2	288.8	292.0 (293.0)	-	1.1	
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (315.5)	-	2.0	
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	18.7	23.0	23.0 (22.0)	-	-	
期末在庫量	206.0	210.9	212.8 (179.2)	-	0.9	
期末在庫率	68.9%	68.7%	68.0% (56.8%)	-	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1	
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.63)	-	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入元国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024 年 1～4 月			2023 年 1 月～2023 年 12 月			2022 年 1 月～2022 年 12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	573.6	66.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	211.9	19.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	99.0	11.1	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	6.7	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
南アフリカ	5.6	0.7	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ブルガリア	4.7	0.6	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	6.5	0.6	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	908.0	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

＜ ウクライナ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 10.6%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、ウクライナ農業政策食料省による作付面積の引上げを受けて前月予測から 0.7 百万トン上方修正されたものの、収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.5%減）するとともに、天候に恵まれ史上第 2 位となった前年度から単収も減少（対前年度比 8.4%減）する見込みを受け、前年度より 10.6%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 34.2%減の 27.7 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、6 月 6 日時点で作付けは完了。生育ステージは三葉期から七葉期を迎えており、作柄は概ね良好。

USDA によれば、6 月上旬、ウクライナ東部で高温乾燥が見られているものの、とうもろこしの主産地である北部等においては降雨があり、生育に必要となる土壌水分量が維持されたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引上げを受けて前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、減産による供給減を受けて前年度より 5.1%減の 4.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、供給減や EU での増産による輸入需要の減少を受け、前年度より 5.8%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 9.3%減の 24.5 百万トンの見込み。

オデーサ港から陸路を経由せず直接臨時回廊を経由するルートによる輸出も増加しつつあり、2024/25 年度は、EU 向けの輸出が減少することもあり、輸出先が多様化する見込み。

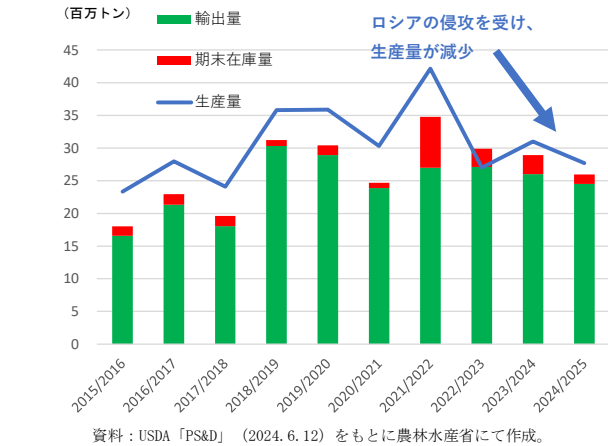
ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 5 月の輸出量は 2,308 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブ履行時の前年同時期比で 5.2%増。輸出先国は、スペイン（516.9 万トン）、中国（439.9 万トン）、エジプト（312.7 万トン）、オランダ（190.0 万トン）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 49.1%減、侵攻前の 5 か年平均より 40%減の 1.5 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 4.3 ポイント減の 5.1%と、2020/21 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.0	31.0	27.7 (27.7)	0.7	▲ 10.6	
消 費 量	4.9	4.9	4.7 (6.3)	0.2	▲ 5.1	
うち飼料用	4.0	3.9	3.7 (4.5)	0.2	▲ 5.1	
輸 出 量	27.1	26.0	24.5 (21.5)	0.5	▲ 5.8	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	2.8	2.9	1.5 (4.4)	-	▲ 49.1	
期末在庫率	8.7%	9.4%	5.1% (15.8%)	▲ 0.1	▲ 4.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.05	4.00	3.90 (4.06)	0.10	▲ 2.5	
単収(t/ha)	6.67	7.75	7.10 (6.83)	▲ 0.01	▲ 8.4	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 June 2024) IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)						

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)



3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2024/25 年度

生産量

前年度比



前月比



・ガイアナで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

消費量

前年度比



前月比



・パキスタン等で下方修正されたものの、フィリピン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量

前年度比



前月比



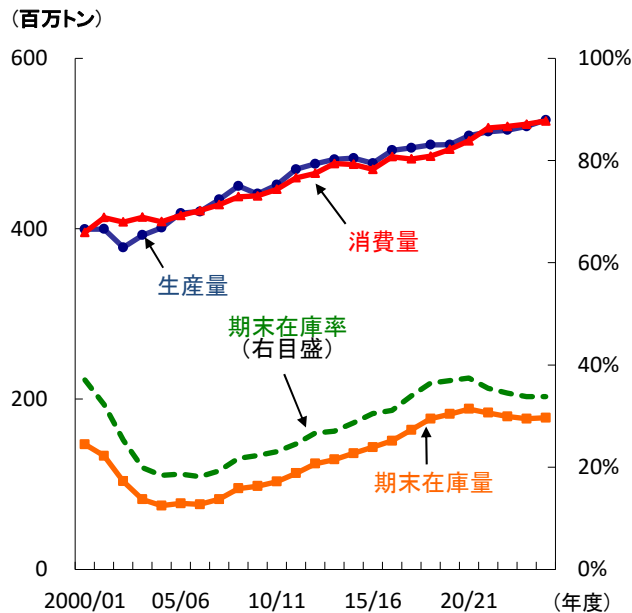
・パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量

前年度比



前月比



資料：USDA「PS&D」（2024. 6. 12）をもとに農林水産省にて作成

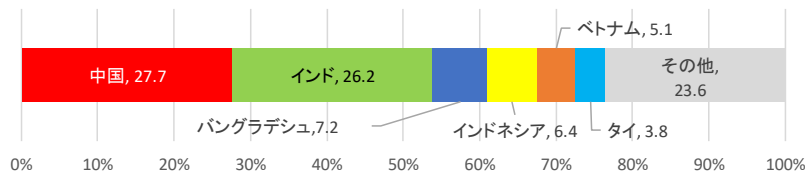
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

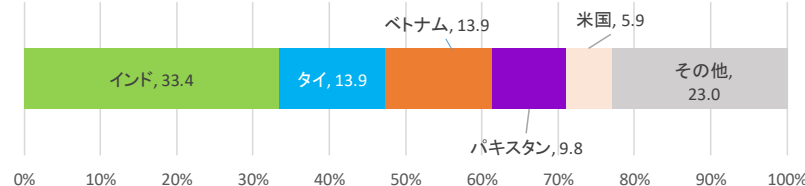
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	515.8	520.0	527.6	0.02	1.5
消 費 量	520.1	522.6	526.4	0.04	0.7
輸 出 量	54.6	53.8	53.9	0.1	0.2
輸 入 量	56.6	51.4	50.6	0.7	▲ 1.6
期末在庫量	179.4	176.8	178.0	1.9	0.7
期末在庫率	34.5%	33.8%	33.8%	0.4	▲ 0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 June, 2024）

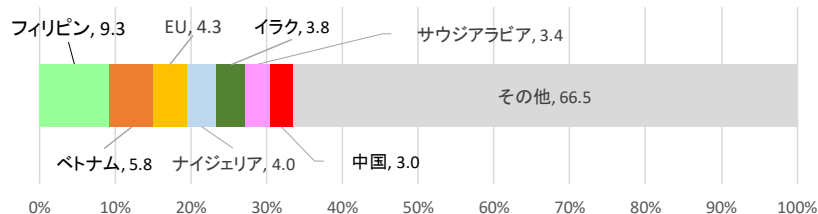
○ 2024/25年度 世界のコメの生産量(527.6百万トン)（単位：％）



○ 2024/25年度 世界のコメの輸出量(53.9百万トン)（単位：％）



○ 2024/25年度 世界のコメの輸入量(50.6百万トン)（単位：％）



（２）国別のコメの需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は増加の見込み

【生育・生産動向】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 0.9%増の 7.0 百万トンの見込み。2023 年末から 2024 年初頭にかけての主として中南米からの需要増加を受けた国内価格の上昇や、国際価格の高騰継続見込みにより、収益向上が見込まれることから、作付意向調査（2024.3.28）で長粒種の作付面積増大が短粒種の作付面積減少を上回り、収穫面積が増大（前年度比 0.9%増）することが要因。

同「Crop Progress」（2024.6.10）によれば、アーカンソー州等主要生産 6 州の 6 月 9 日時点の発芽率は 93%と、前年同期（92%）、過去 5 年平均（91%）より進捗している。作柄評価は「やや良～良」が 82%と、前年同期（67%）を上回っている。これは、生育に適した 5 月の降雨や平年より高い気温が影響している可能性がある。なお、中・短粒種の主要生産州のカリフォルニア州では、発芽率が 65%と、前年同期（61%）より進捗しているものの、過去 5 年平均（79%）より低い。これは、4 月末の作付期初期における豪雨の影響で、作付け進捗率が過去 5 年平均より低かったことが影響している可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 1.8%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、アジア諸国からの香米の継続的な輸入増加を受け、前年度より 0.03 百万トン増加し、前年度比 2.2%増の 1.4 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加とそれに伴う価格下落予想から、前年度比 6.4%増の 3.2 百万トンの見込み。2023/24 年度(2023 年 8 月 1 日～2024 年 5 月 30 日)の主な輸出先国はメキシコ（84.1 万トン）、ハイチ（34.6 万トン）、日本（30.0 万トン）の順。

USDA 「Rice Outlook」（2024.6.14）によれば、6 月 7 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、碎米 4 %混入）の価格は 800 ドル／トンと、中南米諸国からの需要増大を受け、本年 4 月から 2008 年 8 月以来の水準（805 ドル／トン）に高止まりしている（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。地中海向けカリフォルニア米（1 等、碎米 4 %混入）である中粒種の 6 月 7 日までの週の価格は、生産量の増加見込みを受け 835 ドル／トンと、2023 年 9 月初旬の史上最高値（1,650 ドル／トン）から 815 ドル／トン下落し、本年 2 月以降、2021 年 5 月（983 ドル／トン）以来の安値となっている。

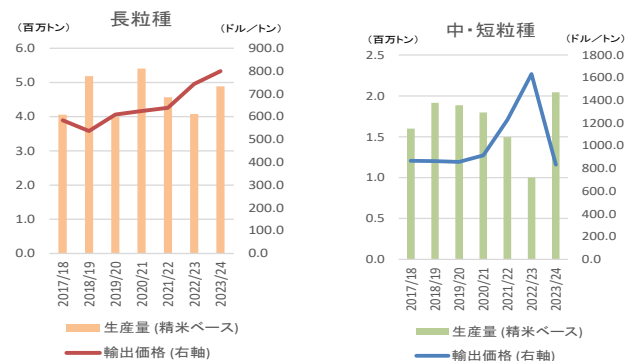
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.0	-	0.9
消 費 量	4.6	5.0	5.1	-	1.8
輸 出 量	2.0	3.0	3.2	-	5.3
輸 入 量	1.3	1.4	1.4	-	2.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.4	▲ 0.0	11.0
期末在庫率	14.4%	15.9%	17.1%	▲ 0.5	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.56	-	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 June, 2024）

図：米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA 「Rice Outlook」（2024.6.14）より。価格は年度内の平均価格。なお、2024/25 年度は 2024 年 6 月の価格。

< インド > カリフ米の作付けを開始

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、138.0百万トンと、前年度比で0.7%増加、過去5年平均比で6.9%増加し、史上最高の見込み。前年度と異なり、雨期が例年通り6月から始まり、作付けも例年通り開始されることで、収穫面積が前年度比1.9%増加（48.50百万ヘクタール）することが要因。

農産物市場情報システム（2024.6）によると、5月28日現在、ラビ米の収穫が終盤を迎えている。

USDA「Weekly Weather」（2024.5-6）によると、5月下旬よりインド南西部から東部にかけて降雨があり、南部ではカリフ米の作付けが開始された。インド気象局によると、雨期は例年通り6月1日から始まり、6月上旬にはインドのほぼ全土で降雨があった。この降雨で北東部もコメの作付けに良好な状況となった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、インフレ懸念を受けて政府が備蓄米を市場に放出すると予想されていることもあり、前年度比2.1%増の120.0百万トンの見込み。なお、政府は市場からコメ等を調達した上で、低所得世帯（8.14億人以上）を対象とし、無償又は低価格で配給している。2023/24年度の調達量は52.5百万トンと、インド全体の消費量の半分に相当し、市場のコメ流通量が限られることから、政府による配給向けの調達が国内価格高止まりの一因とみられる。

2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量（生産量と前年度の期末在庫の合計）の増加を受け、前年度比12.5%増の18.0百万トンの見込み。依然として世界第1位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約33%を占める。2023年10月から2024年3月までの主な輸出先国は、サウジアラビア（76.3万トン）、イラク（49.2万トン）、ギニア（44.7万トン）、ベナン（37.6万トン）の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主となっている。

なお、インドは、2022年9月9日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化している。本年2月21日には、インド財務省が、本年3月31日までの予定だったパーボイルド米の20%の輸出関税を無期限に延長した。詳細は右表を参照のこと。なお、総選挙の結果、現政権が続投することとなり、インフレ抑制（目標は2-6%）等のため、輸出規制等の政策は継続の見込み（概要編参照）。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）によれば、インド産米（碎米5%混入）の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の2022年7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国で最低水準の価格だった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	135.8	137.0	138.0 (133.0)	-	0.7
消 費 量	114.5	117.5	120.0 (114.0)	-	2.1
輸 出 量	20.3	16.0	18.0 (16.3)	-	12.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	38.5	38.5 (37.9)	2.0	-
期末在庫率	26.0%	28.8%	27.9% (29.1%)	1.5	▲ 0.9

(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	47.60	48.50 (47.83)	-	1.9
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.27 (2.84)	-	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June, 2024)、
IGC「Grain Market Report」(23 May, 2024)（単収は精米t/ha）

表：インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ドル/トンに引き下げ (2023.10.26～))	(法定税率) 2023.8.27～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可。
※有機米は本措置の対象外。
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 低温や多雨が東北部の一期作稲や東部・南部の早稲の生育等に影響

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）が見込まれることから、前年度比 1.0%増の 146.0 百万トンの見込み。小麦やとうもろこしに比べて収益が見込まれることや、政府の最低支持価格の上昇、二期作の推進が収穫面積の増大要因とみられる。

中国中央气象台（2024.6）によると、①東北地域の5月上旬から中旬までの気象条件は概ね良好で、降雨により適度な土壌水分となったことから、一期作稲の作付けが開始された。5月下旬は低温が続き、曇りや雨で日照が少ない日もあったことから、稲の生長に遅れがみられた。②長江中下流域及び南部では、5月は平年より気温が高く、多雨となった。5月末の時点で、長江中下流域の早稲は分けつ期から穂ばらみ期にある。南部の大部分の地域では早稲が穂ばらみ期にあり、一部は出穂期に入っている。しかし、南部では多雨により、穂の形成や成熟が不十分な早稲が見られ、害虫被害も発生している模様。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、2023年9月以降のとうもろこし価格低下による飼料用とうもろこし需要増大に伴い、飼料用米の代替需要が減少しているほか、高齢化の進展や若年層の食生活の西洋化等に伴う食用需要の減少から、前年度比 2.2%減の 145.0 百万トンの見込み。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、特に飼料用の国内消費量減少や生産量の微増から、前年度比 6.3%減の 1.5 百万トンの見込み。中国はこれまで、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から碎米を輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度（2021/22年度、6.0 百万トン）と比較して 73.3%減少している（2023/24年度）。なお、中国海関統計によれば、2024年1～4月の輸入量は 47.6 万トン（前年同期比 64.7%減）となった。輸入国別では、1位がタイ（29.8%）、2位はミャンマー（28.3%）、3位がベトナム（27.1%）の順。

2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこしの国際価格の低下を受け、古米等への飼料用代替需要が減少することから、前年度比 6.3%減の 1.5 百万トンの見込み。

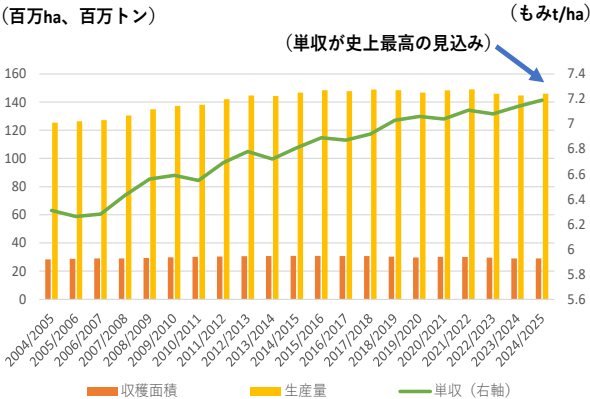
コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消費量	155.0	148.2	145.0 (145.7)	-	▲ 2.2
輸出量	1.7	1.6	1.5 (1.7)	-	▲ 6.3
輸入量	4.4	1.6	1.5 (2.6)	-	▲ 6.3
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.7)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.7%	71.0% (69.0%)	-	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.45)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (4.96)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June, 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May, 2024)（単収は精米t/ha）

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25年度)



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 5月中旬から雨期入り。雨期米の生育等に良好な降雨

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、雨期の開始が遅れ降雨量が少なかった2023年に比べ、2024年は平年通りの雨期（例年5月～10月）となり、収穫面積の回復（前年度比0.5%増）が見込まれることから、前年度比0.5%増の20.1百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather」（2024.5-6）及び現地情報によると、タイは5月中旬頃から雨期に入った。継続的な降雨で3月初旬から続いていた高温が緩和され、土壌水分が改善した。主要生産地である北部、東北部及び中部では5月の降雨量が平年を上回った。5月の降雨はコメの作付生育に好条件となり、雨量が例年を上回る地域もあったが、6月に入り、降雨量が平年より少なくなり、雨が降らない地域も見られた。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.6)及び現地情報によると、雨期米は、作付期から分けつ期にある。2024年上半期は平年より降雨が少なかったことから、農家は作付面積を減らしたり、キャッサバや、高価格で精糖工場から補助金を受給できるサトウキビの作物に転作する等により、干ばつリスクの軽減を図っている。タイ気象局によると、6月は降雨量の増加が見込まれるため、単収は前年度より増加する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシアからの需要が減少する見込み等から、前年度比11.8%減の7.5百万トンの見込み。

2023/24年度の輸出量は、4月のフィリピン等への輸出量が予想を上回り、前月予測から0.1百万トン上方修正されたものの、降雨不足等による減産見込みから、前年度比2.3%減の8.5百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～4月の輸出量は、前年同期比29.1%増の339.8万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の30.0万トンから2.6倍増加し77.2万トンと、最大の輸出先国となった。また、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは31.1万トン（前年同期46.8万トン）、米国は28.1万トン（同22.8万トン）、エルニーニョ現象による降雨不足で減産が見込まれるフィリピンは22.2万トン（同4.0万トン）をそれぞれタイから輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）及び「Rice Outlook」（2024.6.14）によれば、6月7日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、東南アジア諸国からの需要継続見込みから、前月より23ドル／トン上昇し、613ドル／トンとなった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.9	20.0	20.1	(20.1)	-	0.5
消 費 量	12.6	12.6	12.6	(12.7)	-	-
輸 出 量	8.7	8.5	7.5	(8.3)	-	▲ 11.8
輸 入 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	-
期末在庫量	3.8	2.8	2.9	(2.9)	▲ 0.1	3.6
期末在庫率	17.6%	13.0%	14.2%	(13.6%)	▲ 0.5	1.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70	(11.07)	-	0.5
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85	(1.89)	-	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June, 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May, 2024) (単収は精米t/ha)

表：タイの国別輸出量

国名	(単位: 万トン)		
	2023年 1-4月	2024年 1-4月	対前年増減量
1 インドネシア	30.0	77.2	47.3
2 イラク	46.8	31.1	-15.7
3 米国	22.8	28.1	5.3
4 フィリピン	4.0	22.2	18.2
5 南アフリカ	23.9	20.2	-3.7
6 モザンビーク	6.6	14.4	7.7
7 コートジボワール	1.8	12.7	10.9
8 中国	13.0	11.4	-1.6
9 マレーシア	2.8	11.4	8.6
10 セネガル	12.1	10.9	-1.2
計	263.3	339.8	76.6 (前年比29.1%増)

資料：タイ関税局（2024.6）

< ベトナム > 北部は冬春作（乾期米）を収穫、南部は夏秋作（雨期米）を作付け

【生育・生産動向】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の微増が単収減少の影響を相殺することから、前年度並みの 27.0 百万トンの見込み。なお、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等から、収穫面積が史上最高の 2014/15 年度（782.3 万ヘクタール）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.6）によると、①北部は、冬春作（乾期米）が収穫期にある。収穫面積は 0.37 百万ヘクタール。単収は、6.34 もみトン／ヘクタールと、良好な天候と豊富な灌漑用水から、前年度より 0.6%増加の見込み。また、夏秋作（雨期米）の作付けが始まった。②南部では、夏秋作（雨期米）が作付期から分けつ期にある。現時点の播種面積は 1.1 百万ヘクタール。夏秋作の作付けは、主に高温と降雨の遅れによる水不足で、前年度より進捗が遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量は昨年度並みも、飼料用需要等の増加により国内消費量が増加する見込みから、前年度比 9.6%減の 7.5 百万トンの見込み。

USDA 及び現地情報によれば、2023/24 年度の輸出量は、フィリピン等アジア諸国への輸出量が予想を上回ったため、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度比 1.2%増の 8.3 百万トンと史上最高の見込み。なお、インドネシアでは、2023 年 10－12 月にかけて、エルニーニョ現象による降雨不足等の影響によるコメの減産見込み等から、輸入量が増加した。2023 年（1－12 月）は合計 306.3 万トンを輸入し、うちベトナム産の輸入は 114.8 万トン（37.5%）。なお、2024 年 1－4 月のコメの収穫量も前年度比で減少する見込みから、インドネシア政府は合計 360 万トンの輸入枠を決定した。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～5 月の輸出量は 402.6 万トンと、前年同期（361.9 万トン）に比べ 11.2%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（183.3 万トン、前年同期比 19.6%増）、インドネシア（67.7 万トン、同 83.4%増）、マレーシア（33.8 万トン、同 82.5%増）、中国（20.3 万トン、同 67.8%減）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）及び「Rice Outlook」（2024.6.14）によれば、ベトナム産米（長粒種、5 %碎米混入）の 6 月 7 日までの週の価格は、東南アジア諸国からの需要継続の見込みから、前月の価格より 10 ドル／トン上昇し、595 ドル／トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	26.9	27.0	27.0 (28.6)	-	-	
消 費 量	21.9	22.0	22.1 (22.0)	-	0.5	
輸 出 量	8.2	8.3	7.5 (8.0)	-	▲ 9.6	
輸 入 量	2.8	2.8	3.0 (1.6)	-	7.3	
期末在庫量	2.4	1.9	2.2 (2.9)	▲ 0.3	18.7	
期末在庫率	8.0%	6.2%	7.5% (9.5%)	▲ 1.0	1.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.10	7.15	7.15 (7.11)	-	-	
単収(もみt/ha)	6.07	6.05	6.04 (3.90)	-	▲ 0.2	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」 (12 June, 2024) IGC 「Grain Market Report」 (23 May, 2024) (単収は精米t/ha)						

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Rice Outlook」（2024.6.14）より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

生産量

前年度比  前月比 

・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

消費量

前年度比  前月比 

・パラグアイ等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

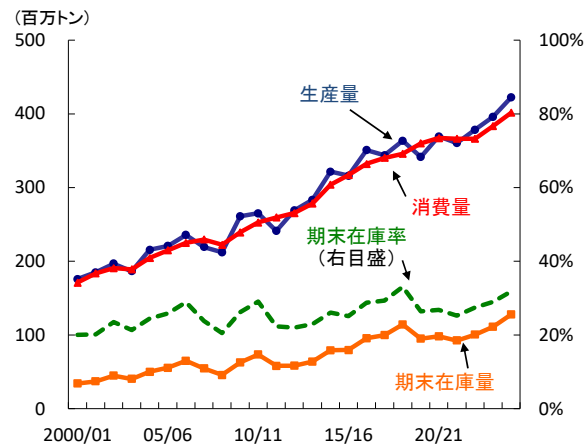
輸出量

前年度比  前月比 

・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

期末在庫量

前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2024. 6. 12)をもとに農林水産省で作成

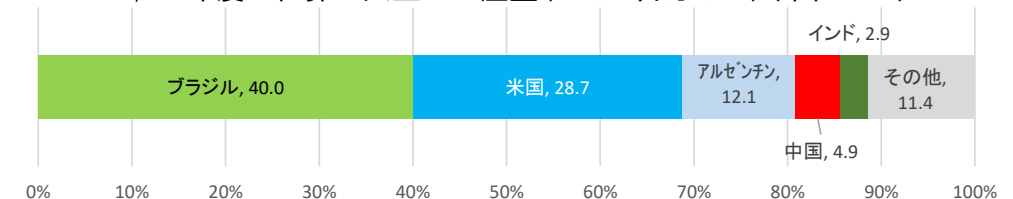
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

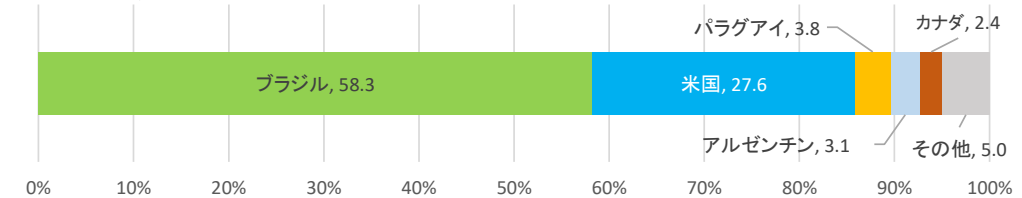
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.4	395.9	422.3	-	6.7
消費量	366.2	383.3	401.6	▲ 0.1	4.8
うち搾油用	315.4	329.8	345.8	▲ 0.1	4.9
輸出量	172.1	172.6	180.2	-	4.4
輸入量	167.9	170.5	176.4	-	3.4
期末在庫量	100.6	111.1	127.9	▲ 0.6	15.2
期末在庫率	27.5%	29.0%	31.8%	▲ 0.1	2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 June 2024)

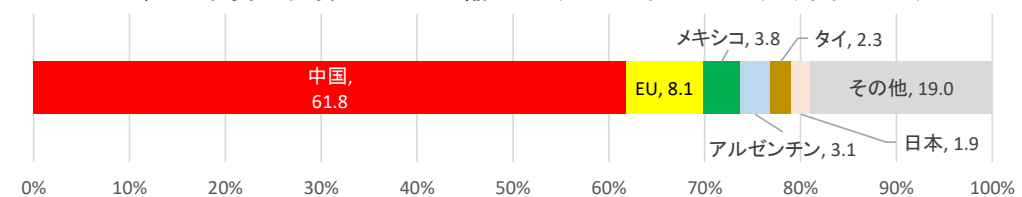
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量(422.3 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出量(180.2 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量(176.4 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 6.9%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 6.9%増の 121.1 百万トンの見込み。作付け時の価格が前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA 「Crop Progress」(2024.6.10) によれば、作付進捗率は 87%と、前年度同期 (95%) を下回ったものの、過去 5 年平均 (84%) を上回っている。出芽率は 70%と、前年度同期 (83%) を下回ったものの、過去 5 年平均 (66%) は上回っている。5 月に中西部で降雨があり、作物の出芽に十分な水分量となっているとみられる。作柄評価が「良～やや良」の比率は 72%と、乾燥の影響を受けた前年度同期 (59%) を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、バイオ燃料等需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.5%増の 69.0 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.3%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.6.12) によれば、本年 6 月の米国の大豆価格は、6 月 7 日現在、作付進捗を受けて前月から 22 ドル/トン下落し、479 ドル/トンとなったものの、ブラジル産 (464 ドル/トン) を上回っている。なお、USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 5 月の輸出量は 4,441 万トンと、ブラジルとの激しい輸出競争を受けて前年度同期の 4,460 万トンより 0.4%減。内訳は中国 (2,359 万トン)、メキシコ (542 万トン)、日本 (304 万トン) の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前年度のアルゼンチンの減産による代替需要を受けて米国産大豆粕の輸出が増大した結果、国内の大豆粕価格が高騰したこと等により、前年度の国内搾油用消費が当初予想ほど伸びないとの見通しを受け、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度より 29.9%増の 12.4 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 10.4%で、過去 5 年平均 (8.0%) を上回り 10%台まで回復したものの、引き続き低水準に留まる見込み。

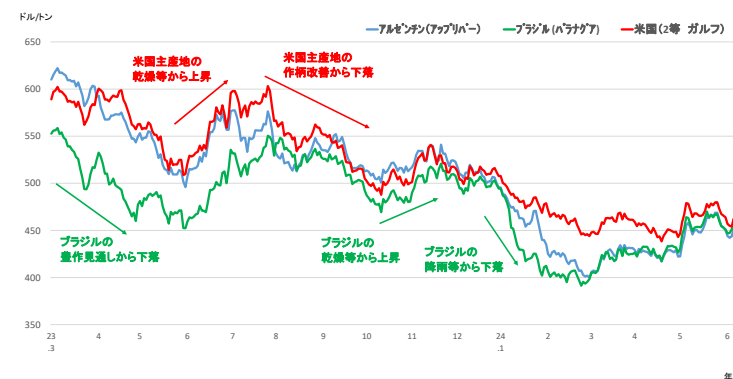
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24 年 9 月～25 年 8 月)		
			予 測 値	前月予測から の 変 更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.2	113.3	121.1	-	6.9
消 費 量	63.0	65.4	69.0	-	5.5
うち搾油用	60.2	62.3	66.0	-	5.9
輸 出 量	54.2	46.3	49.7	-	7.3
輸 入 量	0.7	0.7	0.4	-	▲ 39.7
期末在庫量	7.2	9.5	12.4	0.3	29.9
期末在庫率	6.1%	8.5%	10.4%	0.2	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.64	-	3.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.50	-	2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。

< ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度より増加する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。この際、エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性もある。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.6.13）によれば、2023/24 年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より 4.7%減の 147.4 百万トンの見通し。

5 月上旬、南部のリオ・グランデ・ド・スール州において、多雨により洪水が発生した。リオ・グランデ・ド・スール州政府の機関 EMATER/RS の報告（2024.6.4）によれば、同州での大豆の実産損失は 2.7 百万トンの見込み。ただし、第 1 回目の見積もりであり、洪水の実産に対する影響は、来月以降、より正確に示されるとみられる。

USDA によれば、6 月上旬、リオ・グランデ・ド・スール州を含めて高温乾燥が広がった。CONAB によれば、6 月中旬に収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より 0.4%増の 58.1 百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増を受けて価格競争力も高まる見込みから、前年度より 2.9%増の 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～5 月の輸出量は 50.2 百万トンで、前年度同期（49.0 百万トン）に比べ 2.4%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国（35.8 百万トン）、スペイン（2.2 百万トン）、トルコ（1.6 百万トン）の順。大豆は輸出最盛期に入っている。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

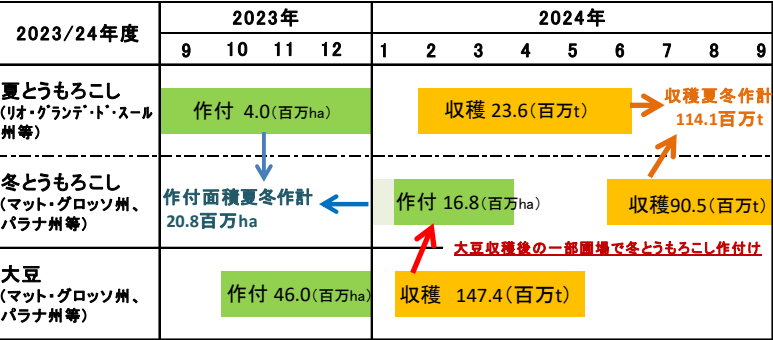
大豆－ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	162.0	153.0	169.0 (161.5)	-	10.5	
消 費 量	57.2	57.9	58.1 (57.3)	-	0.4	
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.3)	-	-	
輸 出 量	95.5	102.0	105.0 (102.9)	-	2.9	
輸 入 量	0.2	0.6	0.2 (0.5)	-	▲ 75.0	
期末在庫量	36.8	30.6	36.6 (3.1)	▲ 0.9	19.8	
期末在庫率	24.1%	19.1%	22.5% (1.9%)	▲ 0.5	3.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.60	45.90	47.30 (41.49)	-	3.1	
単収(t/ha)	3.63	3.36	3.57 (3.89)	-	6.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実産の作付けは、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。



資料：CONAB穀物レポート（2024. 6. 13）

＜ アルゼンチン ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より増加する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しから、前年度から 2.0%増の 51.0 百万トンの見込み。

5 月上旬時点で前年同期より収穫が遅れていたものの、6 月上旬、温暖で乾燥した気候により、収穫が進展した。

アルゼンチン政府によれば、6 月 6 日現在、大豆の収穫進捗率は前年同期並みの 94%。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 11.3%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 15.4%減の 5.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出が増加する見通しから、前年度より 19.6%増の 5.5 百万トンの見込み。

なお、2024 年 1 ～ 4 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 23.1 万トンで前年度（4.6 万トン）の約 5 倍。輸出先は、中国（16.5 万トン）、チリ（2.3 万トン）の順で、4 月に入り、中国向け輸出が急増している。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2 %引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

2023 年 12 月 10 日、右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日、経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大 33%に設定すると発表した。

大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	25.0	50.0	51.0	(51.0)	-	2.0
消 費 量	36.6	42.8	47.6	(48.5)	-	11.3
うち搾油用	30.3	35.5	40.0	(42.0)	-	12.7
輸 出 量	4.2	4.6	5.5	(4.9)	-	19.6
輸 入 量	9.1	6.5	5.5	(5.4)	▲	15.4
期末在庫量	17.0	26.2	29.6	(12.9)	-	13.0
期末在庫率	41.7%	55.2%	55.6%	(24.1%)	-	0.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.50	16.90	(15.87)	-	2.4
単収(t/ha)	1.74	3.03	3.02	(3.21)	-	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

写真：北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2024 年 5 月 30 日撮影)



本圃場の大豆は、既に収穫が完了。アルゼンチンでは、収穫期に穀物の貯蔵施設の需要を満たすためにサイロバッグが頻繁に使用されている（写真は農業組合のサイロバッグ）。

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より減少する見通し

【生産・生育状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目の見込み。

なお、6 月上旬、主産地の黒竜江省等では出芽期を迎えている。USDA によれば、6 月上旬、東北部では、降雨を受けて生育初期の水分状況が良好となり、大豆の生育に好影響を与えている。

2 月 3 日に発表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物需要増を受けて大豆粕需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、大豆粕需要増を受けて、前年度より 3.8%増の 109.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～4 月の輸入量は、前年同期より 2.9%減の 2,714.8 万トン。内訳は、ブラジル（1,590.1 万トン）、米国（958.3 万トン）、カナダ（97.6 万トン）の順となっており、前年同期の米国（1,598.5 万トン）、ブラジル（920.8 万トン）の順が逆転している。なお、ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 4 月号」によると、4 月の国内価格は、5,360 元/トンと前月並み。中国政府系企業による継続的な買付けで価格は安定している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸入増を受けて、前年度より 7.7%増の 39.2 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 1.0 ポイント増の 30.9%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	20.3	20.8	20.7 (20.5)	-	▲ 0.7	
消 費 量	117.5	121.7	126.8 (125.3)	-	4.2	
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (103.4)	-	4.0	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
輸 入 量	104.5	105.0	109.0 (103.0)	-	3.8	
期末在庫量	32.3	36.4	39.2 (39.6)	-	7.7	
期末在庫率	27.5%	29.9%	30.9% (31.6%)	-	1.0	

(参考)
収穫面積(百万ha) 10.24 10.47 10.50 (8.40)
単収(t/ha) 1.98 1.99 1.97 (1.95)
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

表 中国の大豆輸入量と輸入元国

2024年 1～4 月			2023年 1 月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	1590.1	53.8	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	958.3	38.4	米国	2,374.3	24.0
カナダ	97.6	4.9	アルゼンチン	199.2	2.0
ロシア	27.0	1.2	カナダ	146.6	1.5
アルゼンチン	21.3	1.1	ロシア	129.3	1.3
ベナン	11.1	0.2	南アフリカ	14.7	0.1
その他	9.4	0.4	その他	38.6	0.4
計	2,714.8	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 6.9 百万トンの見込み

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.6.20) によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が前年より減少することを受け、前年度から 1 %減の 6.9 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微減に留まるとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。作付面積の減少は、前年度に作付面積を増加させたマニトバ州の農家が反動で作付面積を減らしたことが要因とみられる。

なお、カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州及びケベック州でも生産されている。オンタリオ州では作付期の終盤にあり、概ね出芽期から一葉期を迎えている。

USDA によれば、6 月上旬にオンタリオ州及びケベック州の一部で乾燥がみられたものの、大部分で降雨があり、土壌水分量が維持され、生育状況は概ね良好。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用等の需要の減少により前年度から 1.5%減の 2.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.0%増の 5.0 百万トンの見込み。主要な輸入相手国である中国において、搾油用需要増に伴い、輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会 (Canadian Grain Commission) によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の 2023 年 8 月～2024 年 4 月の輸出量は 324.6 万トンで、前年度同期 (306.5 万トン) を上回っている。国別では、中国 (143.9 万トン) が 40%以上のシェアを占め、次いでアルジェリア (54.9 万トン)、イラン (54.6 万トン)、イタリア (15.0 万トン) の順となっている。

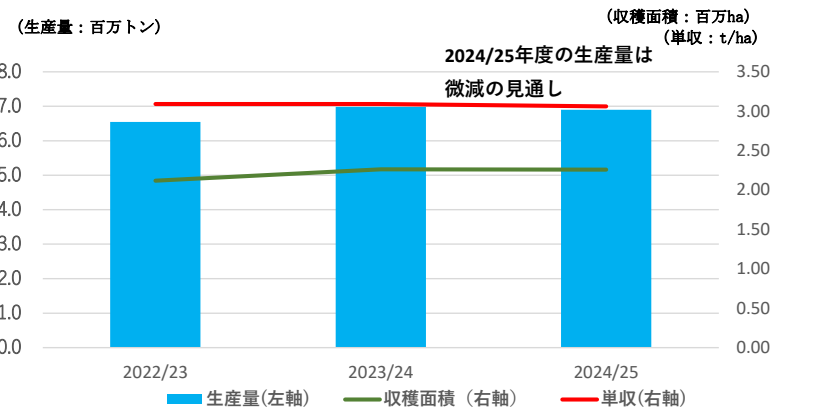
AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産により前年度から 10.8%減の 0.4 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	6.7 (6.9)	-	▲ 4.0
消 費 量	2.7	2.8	2.7 (2.4)	-	▲ 3.6
うち搾油用	1.8	1.8	1.7 (1.9)	-	▲ 5.7
輸 出 量	4.2	4.6	4.3 (5.0)	-	▲ 5.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	14.3
期末在庫量	0.4	0.4	0.6 (0.4)	▲ 0.0	37.4
期末在庫率	5.3%	5.5%	7.9% (5.0%)	▲ 0.0	2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.20 (2.26)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.05 (3.06)	-	▲ 1.3

資料：USDA 「PS&D」
「World Agricultural Production」 (12 June 2024)
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (20 June 2024)

図 カナダの直近 3 か年の生産量等の推移



資料：AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (2024.6.20) をもとに
農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2024/25年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

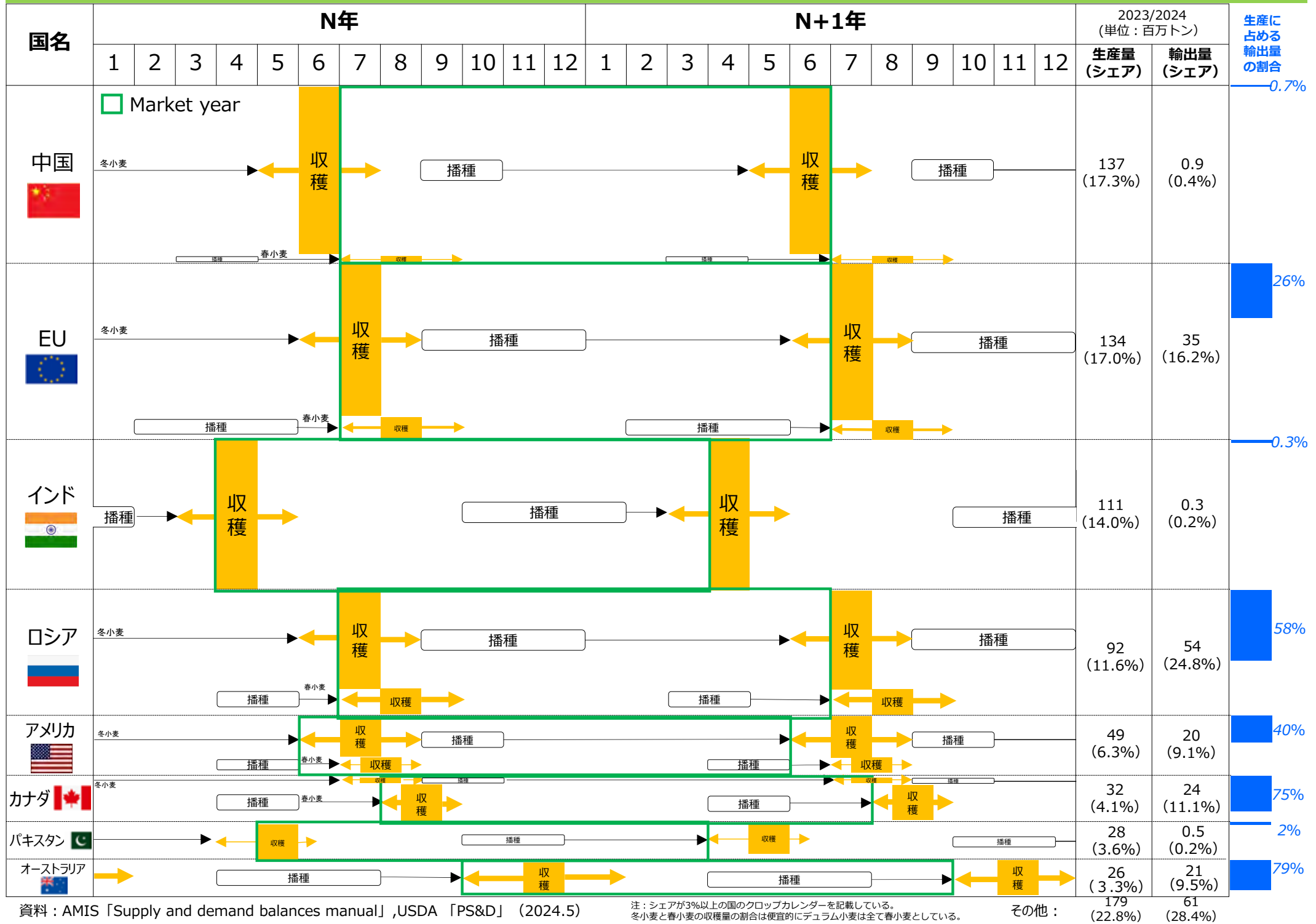
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

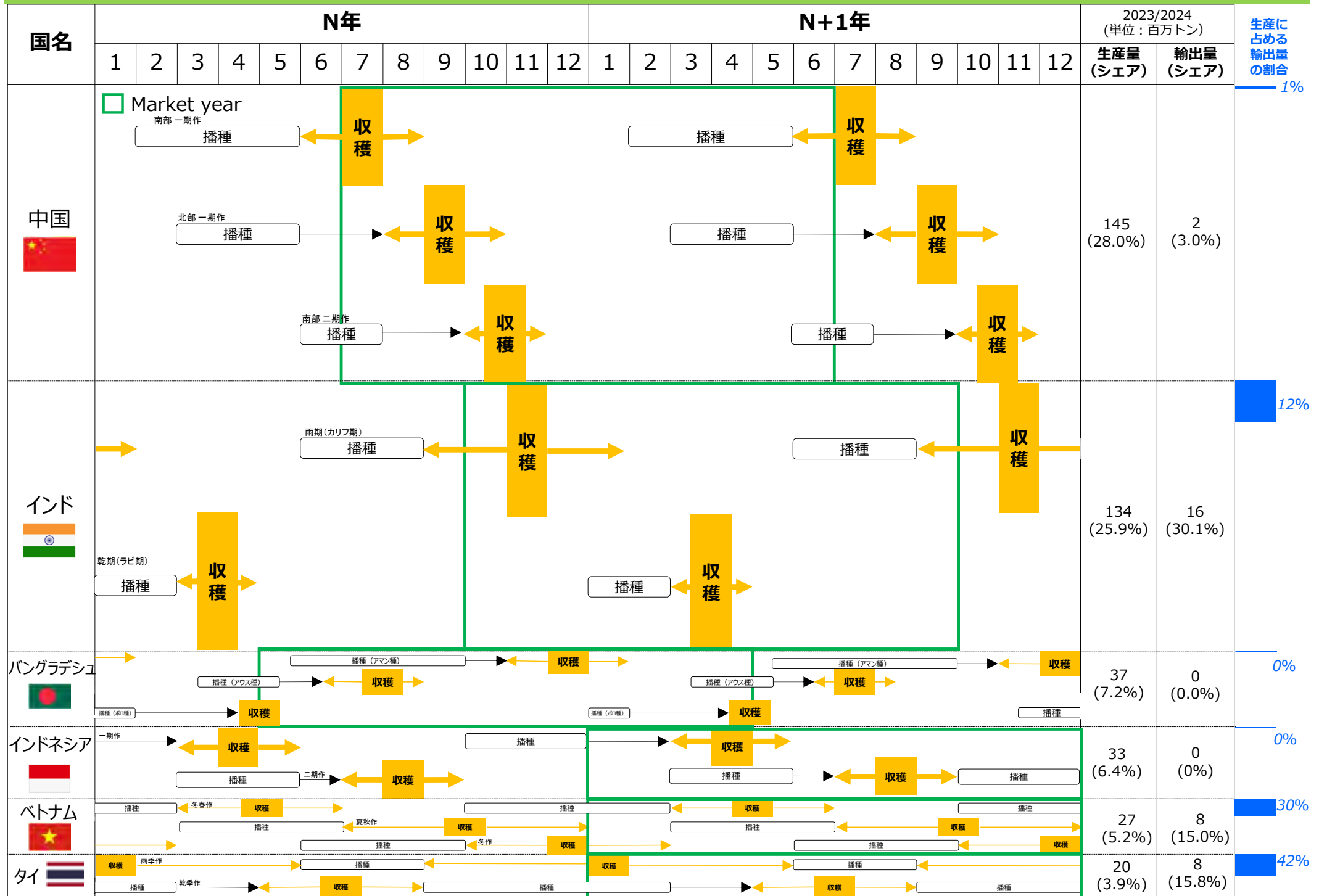
主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



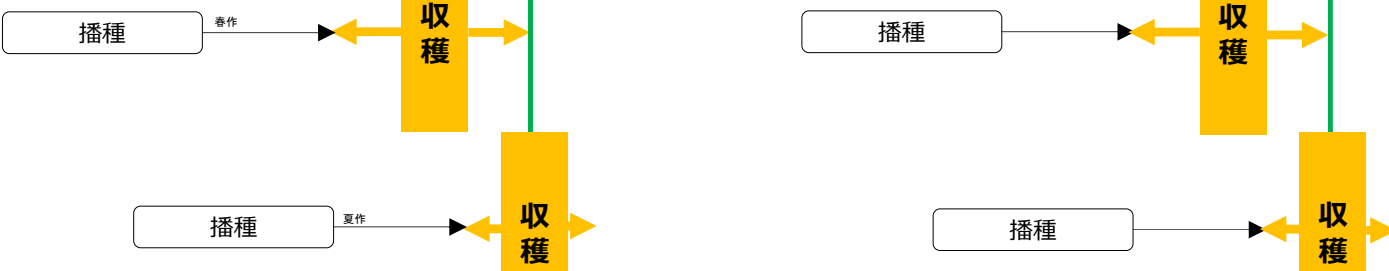
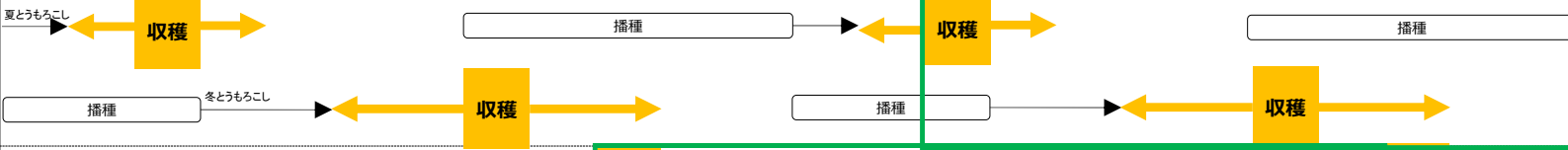
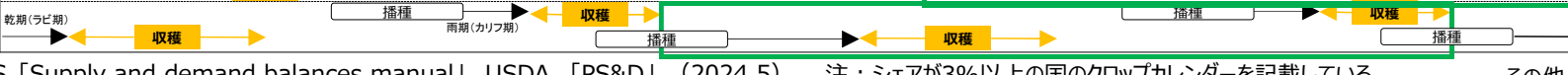
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」 ,USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他 :

122
(23.5%)

19
(36.1%)

主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

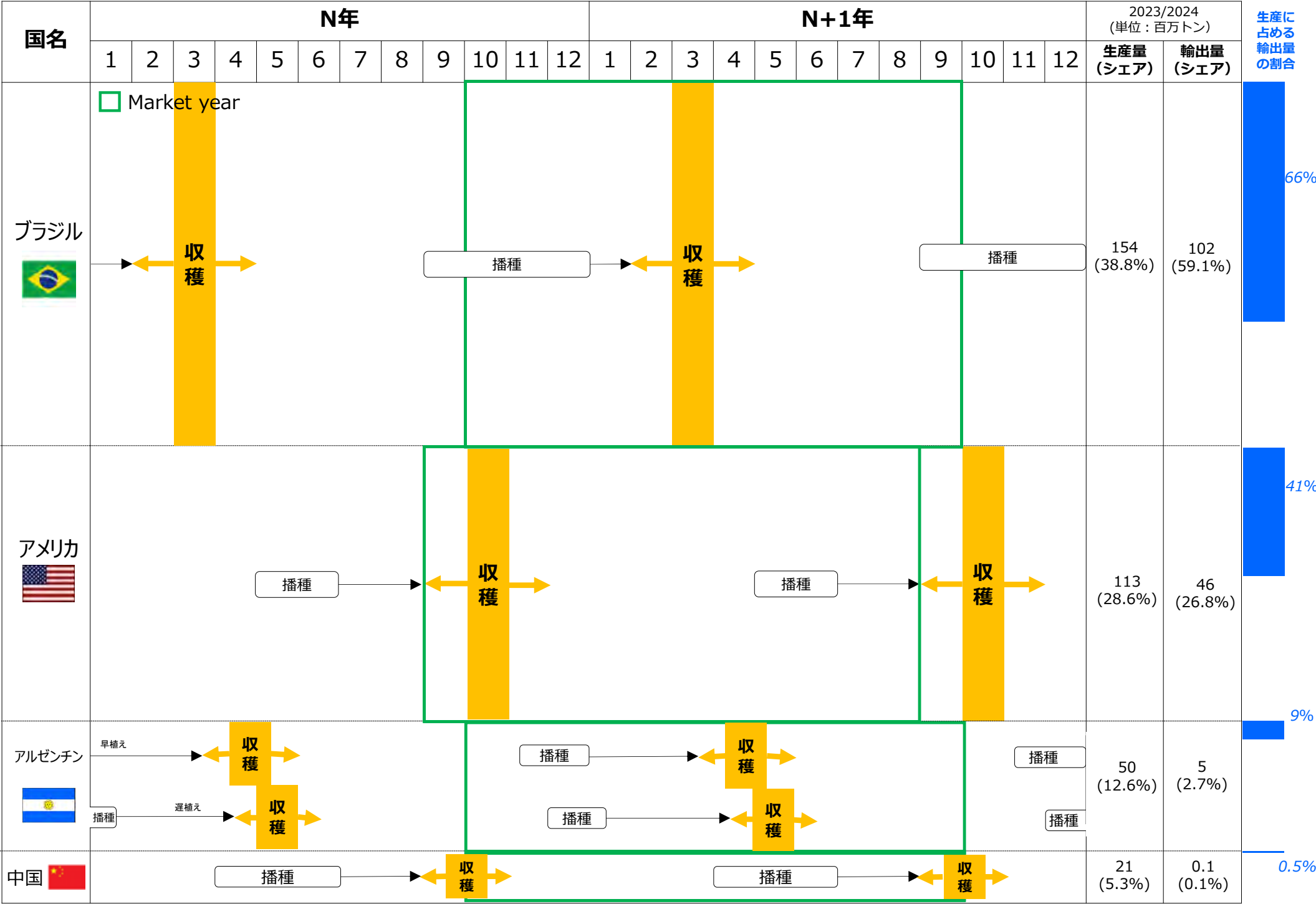
国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)					
アメリカ 	□ Market year																				390 (31.7%)	55 (27.7%)	 14%								
中国 													289 (23.5%)	0 (0.0%)	 0%																
ブラジル 													122 (9.9%)	50 (25.3%)	 41%																
EU 													61 (5.0%)	4 (2.1%)	 7%																
アルゼンチン 													53 (4.3%)	38 (19.3%)	 72%																
インド 													38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	 2%																
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)														注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。														その他：276 (22.5%)		50 (25.2%)	

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA「PS&D」(2024.5) 注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

その他：

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA「PS&D」(2024.5) 注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：59 (14.8%) 20 (11.3%)

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種										収穫	播種				20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%		
カナダ 	播種						収穫	播種										収穫	播種				19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%		
中国 	収穫						播種										収穫	播種				15 (17.4%)	0 (0%)	0%			
インド 	収穫						播種										収穫	播種				13 (14.1%)	0 (0%)	0%			
オーストラリア 	播種						収穫	播種										収穫	播種				6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%		
ウクライナ 	収穫						播種	収穫										播種	収穫				4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%		
ロシア 	播種						収穫	播種										収穫	播種				4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%		

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 6 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html